

博士前期課程
シラバス

(平成29・30・31年度入学者用)

2019

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団の中で連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができます。

日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： <u>Basic</u>		中上級領域： <u>Intermediate and Advanced</u>	
		1	2	3	4
自主創造	自ら学ぶ	A-1 : 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。
	自ら考える	A-2 : 世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。
	自ら道をひらく	A-3 : 論理的・批判的思考力	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づいて、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づいて、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づいて、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。
	自ら道をひらく	A-4 : 問題発見・解決力	事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。
	自ら道をひらく	A-5 : 挑戦力	新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。
	自ら道をひらく	A-6 : コミュニケーション力	親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	自ら道をひらく	A-7 : リーダーシップ・協働力	集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	自ら道をひらく	A-8 : 省察力	自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。

一目 次一

国際情報専攻

必修科目

国際情報論特講 丸森 一寛 1

国際（関係）・政治コース

戦略情報論特講	乾 一宇	3
戦略情報論特講	木原 淳	5
危機管理論特講	川中 敬一	7
組織倫理論特講	坂井スオミ	9
現代政治学特講	井手 康仁	11
国際法特講	安藤 貴世	13
国際政治論特講	庄司 貴由	15
国際協力論特講	池上 清子	17
国際関係論特講	草野 大希	19
行政論特講	関根二三夫	21
日本政治史論特講	瀧川 修吾	23
アフリカ開発論特講	未 開 講	
グローバルヘルス論特講	蓋 若琰	25
国際メディア論特講	近藤 大博	27
現代中国政治論特講	山本 忠士	29
日中比較社会論特講	高綱 博文	31
環境生態論特講	村井 英紀	33
市民社会論特講	池上 清子	35

経営・経済コース

経済理論特講	未 開 講	
国際経済政策論特講	前野 高章	37
近代日本社会変動論特講	小峰 和夫	39
グローバル経営戦略論特講	階戸 照雄	41
現代ファイナンス論特講	加藤 孝治	43
アカウンティング論特講	建宮 努	45
フィナンシャル・アカウンティング論特講	丸森 一寛	47
マネジメント・アカウンティング論特講	丸森 一寛	49
マーケティング論特講	嶋 正	51
人材マネジメント論特講	加藤 孝治	53
多国籍企業論特講	諸上 茂登	55
流通ビジネス論特講	小林二三夫	57
ビジネス法特講	中村 良	59
ファミリービジネス論特講	未 開 講	
ファミリーガバナンス論特講	階戸 照雄	61
事業創造論特講	中村裕一郎	63
事業承継論特講	曾根 秀一	65
中小企業論特講	小林 世治	67

専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	69
統計基礎 I	荒閑 仁志	71
統計基礎 II	荒閑 仁志	73
ゲーム理論	荒閑 仁志	75

文化情報専攻

必修科目

文化情報論特講 保坂 敏子 77

文化研究コース

比較文学特講 秋草俊一郎 79

メディア文化論特講 堀江 秀史 81

翻訳論特講 井上 健 83

日本文化論特講 I 近藤 健史 85

日本文化論特講 I 野口 恵子 87

日本文化論特講 I 小田切文洋 89

日本文化論特講 II 長谷川正江 91

日本文化論特講 II 未開講

日本文化論特講 II 山崎真紀子 93

東アジア文化論特講 清水 享 95

中国語圏文化論特講 吳 川 97

ヨーロッパ言語圏文化論特講 秋草俊一郎 99

英語圏文化論特講 未開講

英語圏文化論特講 秋草俊一郎 101

児童文学特講 猪野 恵也 103

言語教育研究コース

言語教育学特講 大川 英明 105

言語学特講 保坂 道雄 107

異文化間コミュニケーション論特講 西田 司 109

社会言語学特講 島田めぐみ 111

第二言語習得論特講 田嶋 優雄 113

言語教育工学特講 保坂 敏子 115

言語教育デザイン論特講 豊田 哲也 117

日本語学特講 小野 正樹 119

日本語教育方法論特講 島田めぐみ 121

英語学特講 Clive Stuart Langham 123

英語教育方法論特講 太田 晴美 125

専攻共通科目

調査分析特講 田中堅一郎 127

統計基礎 I 荒関 仁志 129

統計基礎 II 荒関 仁志 131

ゲーム理論 荒関 仁志 133

人間科学専攻

必修科目

人間科学特講 田中堅一郎 135

哲学コース

社会哲学特講 斎藤 宜之 137

哲学史特講 斎藤 宜之 139

宗教哲学特講 石浜 弘道 141

科学哲学特講 大熊 圭子 143

生命倫理学特講 橋本 和法 145

社会思想史特講 岡山 敬二 147

心理学コース

心理学史特講 荒川 歩 149

心理学研究法特講 真邊 一近 151

認知心理学特講 山本 真菜 153

社会心理学特講 和田 万紀 155

産業・組織心理学特講 田中堅一郎 157

臨床心理学特講 菊島 勝也 159

医療心理学特講 飛田伊都子 161

行動分析学特講 小野 浩一 163

コミュニケーション心理学特講 真邊 一近 165

教育学コース

生涯学習論特講 古賀 徹 167

学校教育学特講 北野 秋男 169

教育心理学特講 時田 学 171

教育臨床学特講 井上 雅彦 173

生徒指導論特講 柴山 英樹 175

教育評価論特講 藤田 主一 177

医療・安全学コース

健康科学特講 泉 龍太郎 179

安全学特講 荒閑 仁志 181

人間工学特講 泉 龍太郎 183

環境生理学特講 泉 龍太郎 185

スポーツ科学コース

スポーツ運動学特講 小山 裕三 187

スポーツ医学特講 布袋屋 浩 189

スポーツ心理学特講 種ヶ嶋尚志 191

コーチング学特講 鈴木 典 193

専攻共通科目

調査分析特講 田中堅一郎 195

統計基礎Ⅰ 荒閑 仁志 197

統計基礎Ⅱ 荒閑 仁志 199

ゲーム理論 荒閑 仁志 201

人間科学専攻

(シラバス)

シ ラ バ ス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・リポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

リポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	人間科学特講	担当者	タナカ 田中 イズミ 泉	ケンイチロウ 堅一郎 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	--------------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等について理解してもらうことを目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。</p> <p>Ⅰ. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。【A-4:3】</p> <p>Ⅱ. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。【A-3:3】</p> <p>Ⅲ. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。【A-1:3】</p> <p>【日本大学教育憲章ループリックの該当番号】</p>																
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 人間科学で研究・論文作成する上で「常識」とされる知識を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間科学を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、a) 研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、b) 自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、c) 研究倫理について、研究を進める上でやつてはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。 ・自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。 																
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 <ul style="list-style-type: none"> ・リポートの推敲過程において、manaba folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略（LS）】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、リポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folio を通じて適宜科目担当者に質疑をする（リポート作成）。</p> <p>・7月中旬に3日間実施されるスクーリング（集中面接授業）に全日程出席することが、単位取得の要件となる。また、リポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までに manaba folio に提出する。なお、補講を実施する場合がある（ディベート、自主研究）。</p> <p>【学修時間】 在宅学修では、リポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)リポート執筆；10時間、3)リポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</p> </p>																
スケジュール (各90分)	<p>この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつくかぎり、初年度に履修すること。</p> <p>＜通信授業（在宅学習）2単位分：基本教材1＞ 担当：田中 堅一郎 前期：できるかぎりスクーリング前までに基本教材1および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてリポート課題を作成し、提出日（9月19日）までに最終稿を提出する。</p> <p>＜スクーリング 2単位分＞ 主担当： 泉 龍太郎 2019年7月13日～15日（9月中旬に補講を実施する場合がある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー <ul style="list-style-type: none"> ①研究・論文作成の概論（加藤孝治） ②研究、及び論文作成に求められるもの（加藤孝治） ③論証あるいは検証の方法（泉龍太郎） ④研究倫理1（田中堅一郎） ⑤研究倫理2（田中堅一郎） ⑥先行研究のレビューとその利用方法（保坂敏子） ⑦研究及び論文の進め方（泉龍太郎） 2) 人間科学専攻分野における研究基盤としての知識・教養（担当：田中堅一郎） <ul style="list-style-type: none"> ⑧人間科学I ⑨人間科学II ⑩人間科学III 3) 人間科学専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員） <ul style="list-style-type: none"> ⑪哲学（岡山敬三） ⑫教育学（柴山英樹） ⑬安全学（荒関仁志） ⑭医療・健康科学（泉龍太郎） ⑮スポーツ科学（泉龍太郎） <p>(1)スクーリング・リポート課題1：スクーリング1週間後（初稿） (2)スクーリング・リポート課題2：スクーリング終了の1か月後（初稿）</p>																
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通信授業 (在宅学修・リポート)</td> <td>50 %</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・最終提出期限内に提出されなかったリポート課題は、（原則的に）ゼロ点となります。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間にいきなり最終稿を出された場合、そのリポート課題の評価点は69点以下しか得られません。 </td> </tr> <tr> <td>スクーリング (観察記録)</td> <td>50 %</td> <td>スクーリングの参加状況（ディスカッションを含む；10%）及びリポート課題1（10%）及びリポート課題2（30%）により評価。</td> </tr> </tbody> </table>								種別	割合	評価基準	通信授業 (在宅学修・リポート)	50 %	<ul style="list-style-type: none"> ・最終提出期限内に提出されなかったリポート課題は、（原則的に）ゼロ点となります。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間にいきなり最終稿を出された場合、そのリポート課題の評価点は69点以下しか得られません。 	スクーリング (観察記録)	50 %	スクーリングの参加状況（ディスカッションを含む；10%）及びリポート課題1（10%）及びリポート課題2（30%）により評価。
種別	割合	評価基準															
通信授業 (在宅学修・リポート)	50 %	<ul style="list-style-type: none"> ・最終提出期限内に提出されなかったリポート課題は、（原則的に）ゼロ点となります。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間にいきなり最終稿を出された場合、そのリポート課題の評価点は69点以下しか得られません。 															
スクーリング (観察記録)	50 %	スクーリングの参加状況（ディスカッションを含む；10%）及びリポート課題1（10%）及びリポート課題2（30%）により評価。															
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・リポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 ・スクーリング受講前に、基本教材1に必ず目を通して下さい。 ・いずれのリポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。 ・リポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねるのではなく、論文の体裁で書いて下さい。 																

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 高橋順一・渡辺文夫・大渕憲一(編著) 教材名： 『人間科学研究法ハンドブック（第2版）』（ナカニシヤ出版, 2011年） ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税</p> <p>心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章（研究とは何か）、第2章（データの収集）、第3章（研究の設計と管理）、第4章（人間科学における研究倫理について）、第5章（文献調査の方法）、第6章（メッセージ分析）、第7章（観察法）、第8章（調査的面接法）、第9章（フィールド研究におけるインタビュー）、第10章（質問紙調査法）、第11章（実験法）、第12章（研究論文の書き方1）、第13章（研究論文の書き方2）</p>
参考図書	<p>新堀 聰『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』（同文館出版, 2002年） ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税</p> <p>トウラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』（慶應義塾大学出版会, 2012年） ISBN 978-4766419771 8,000円+税</p> <p>三浦麻子『なるほど！ 心理学研究法（心理学ベーシック第1巻）』（北大路書房, 2017年） ISBN978-4-7628-2966-6 2,200円+税</p>
履修上のポイント	参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。 夏期および冬期のスクーリングの講義では、基本教材1についての話題を中心とする予定である。
リポート課題1	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、リポートの最後に全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を、800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること（合計7,000字～8,000字程度を目安にすること）。教材の引き写しは評価の対象外とする。
リポート課題2	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことがらを中心に、3,000字～4,000字でまとめるのこと。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： スクーリングで提示された推薦図書 教材名：
参考図書	<p>杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』（サイエンス社, 2005年） ISBN 978-4-78-191078-9 1,900円+税</p> <p>山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』（丸善, 2013年） ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税</p>
履修上のポイント	スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身に着ける、とともに③研究及び論文作成のモチベーションを高めるようにする。また、後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努めるようとする。いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢がポイントとなる。
リポート課題1	スクーリングの概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げても構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること（1,000字～1,500字）。
リポート課題2	各分野の研究方法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、 研究計画書 （3,000字から4,000字）をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出してください。

科目名	社会哲学特講	担当者	サイトウ 齋藤 ヨシユキ 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	ひとは自分の生きている時代や社会のあり方こそが「普通」であり、歴史で学ぶような過去の時代にのみ諸々の「激動的」な出来事があったとか、古い時代における社会は「未発達」のそれであるなどと思いがちです。しかし、100 年後の歴史家は、21 世紀初頭という我々が生きるこの時代についていかなる評価を下すことになるでしょうか。「社会哲学」とは、人間・社会・時代のあり方を、常識的通念を一度は相対化したうえで、原理的なレベルで考察する学問です。この科目での学修を通じて得てほしいものは、このような巨視的な視点から物事を見渡すための教養と思考力です。 【A-1:4, A-3:4】						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的・批判的な思考をする能力を身に付ける。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。 関連する文献についても、積極的に参照すること。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 テキストおよび関連文献の読解に 20 時間以上、リポート提出とそれへのコメントを受けての再提出に 25 時間以上を目安とする。</p>						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 文献読解とリポート作成を主にして学修を進める。一本のリポートを仕上げるための過程と必要時間の目安は以下である。文献読解(20 時間) → レポート執筆(15 時間) → 担当教員のコメントを受けての修正(10 時間)。以上の過程において、疑問点等は manaba やメールで質問すること。</p>						
スケジュール	<p>前期・後期ともに、最初の数カ月でテキストと関連文献を十分に読み込んでおくこと。疑問点については担当教員に質問し、以下の期限に遅れないようにリポートを提出すること。</p> <p>「基本教材 1」の「リポート課題 1」を 7 月 15 日までに、「リポート課題 2」を 8 月 15 日までに提出。その後、2 つのリポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を 9 月 19 日までに提出。</p> <p>「基本教材 2」の「リポート課題 1」は 11 月 15 日までに、「リポート課題 2」は 12 月 15 日までに提出。その後、2 つのリポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を 1 月 14 日までに提出。</p>						
成績評価	種 別	割合	評価基準				
	リポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。				
	観察記録	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。				
履修者への要望	<p>まずはテキストを虚心に読み込み、その内容を正確に理解することに努めてください。自分の考え方や常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。</p> <p>その次の段階として、哲学的な概念をたんに抽象的な觀念や記号としてのみ受け取るのでなく、現実的な事象や実人生における経験に照らし合わせることを通じて、概念に生々しい内実を与える作業をしてください。</p> <p>レポート執筆時には、読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ハンナ・アーレント 教材名： 『人間の条件』ちくま学芸文庫, 1994年 ISBN : 4480081569 この書の問い合わせは実にシンプルです。「私たちは何をしているのか?」という問いただす。アーレントは人間の行為を「労働」「仕事」「活動」の三つに分類し、それらの位置付けと意義が、古代ギリシアから近代にいたるまでにどのような変遷をたどってきたかを批判的に分析しています。
参考図書	受講者の知識と関心に応じて適宜紹介します。
履修上のポイント	この書のひとつ特徴として、高度に哲学的な概念についての記述と、具体的な歴史記述や実例の記述が混交しているという点が挙げられます。これら二つはもちろん無関係ではありません。両者がどのようにリンクしているのかに留意しつつ読み進めてください。
リポート課題 1	「労働」「仕事」「活動」という三つの「活動力」の違いについて説明せよ。(さらに可能であれば、それらの位置付けや意義が、時代の変遷とともにどのように変化したかについても説明せよ。) 留意点： あくまでアーレント自身の説明に即して記述すること。
リポート課題 2	『人間の条件』に学んだ知見に基づいて、「近代」(ないし「現代」という時代の特殊性について論評せよ。 留意点： たんなる「要約」ではない「論考」としてのリポートを書くこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ジョルジオ・アガンベン 教材名： 『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』以文社, 2003年 ISBN : 475310253X ギリシア語には「生」を表す語が二つあります。「ビオス」(政治的な生)と「ゾーエー」(生物学的な生)です。アガンベンは直訳的には「聖なる人間」を意味する「ホモ・サケル」に、「剥き出しの生」としての「ゾーエー」の姿を見出し、近代におけるその独特のあり方を多角的に分析します。
参考図書	受講者の知識と関心に応じて適宜紹介します。
履修上のポイント	この書で扱われる題材は多岐にわたりますので、全体を貫く統一的なテーマを見失わないように読み進めてください。また同書中では、フーコー、アーレント、シュミット等、多くの思想家について言及されています。これらの思想家についても可能な限りでよいので勉強してみてください。
リポート課題 1	「ビオス」(政治的な生)と「ゾーエー」(生物学的な生)の違いを主軸にして主要な論点を要約せよ。 留意点： あくまでアガンベン自身の説明に即して記述すること。
リポート課題 2	『ホモ・サケル』に学んだ知見に基づいて、「近代」ないし「現代」という時代のあり方について自由に論評せよ。 留意点： たんなる「要約」ではない「論考」としてのリポートを書くこと。

科目名	哲学史特講	担当者	サイトウ 齋藤 ヨシユキ 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「哲学」とは「みずからの頭で考える」嘗為そのものです。しかしそれは、たんなる「一人よがり」であってはなりません。「哲学史」を学ぶことの意義とは、歴史上の優れた知性によって展開された様々な「思考」を「追体験」することによって、自らの思考力を鍛え上げることにあります。そのような学修を通じて目指してほしいのは、同時代において流通している「常識」をも相対化しうる巨視的な知性を身に付けることです。</p> <p style="text-align: right;">【A-1:4, A-3:4】</p>															
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的・批判的な思考をする能力を身に付ける。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。 関連する文献についても、積極的に参照すること。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 テキストおよび関連文献の読解に 20 時間以上、リポート提出とそれへのコメントを受けての再提出に 25 時間以上を目安とする。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 文献読解とリポート作成を主にして学修を進める。一本のリポートを仕上げるための過程と必要時間の目安は以下である。文献読解(20 時間) → レポート執筆(15 時間) → 担当教員のコメントを受けての修正(10 時間)。以上の過程において、疑問点等は manaba やメールで質問すること。</p>															
スケジュール	<p>前期・後期ともに、最初の数カ月でテキストと関連文献を十分に読み込んでおくこと。疑問点については担当教員に質問し、以下の期限に遅れないようにリポートを提出すること。</p> <p>「基本教材 1」の「リポート課題 1」を 7 月 15 日までに、「リポート課題 2」を 8 月 15 日までに提出。その後、2 つのリポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を 9 月 19 日までに提出。</p> <p>「基本教材 2」の「リポート課題 1」は 11 月 15 日までに、「リポート課題 2」は 12 月 15 日までに提出。その後、2 つのリポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を 1 月 14 日までに提出。</p>															
成績評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">種 別</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">割合</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">リポート</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">70 %</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">観察記録</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">30 %</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。</td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割合	評価基準	リポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。	観察記録	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。
種 別	割合	評価基準														
リポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。														
観察記録	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。														
履修者への要望	<p>「哲学史」とは、完成品としての「思想」のカタログなどではなく、悪戦苦闘の「思考」のドキュメントです。まずは、受講者それぞれにとって切実な「問い合わせ」について考え抜いた哲学者を発見してください。</p> <p>そのうえで、自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。</p> <p>レポート執筆時には、読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： 『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，2006年 ISBN4-00-431007-5 古代ギリシアから中世末にいたるまでの哲学史。タレスに始まり、プラトン、アリストテレス、ストア派、アウグスティヌス、トマス・アクィナス、オッカム等、多くの哲学について解説。記述は平易ながらも、従来の哲学史には見られない独自の知見が豊富に含まれています。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は、担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	まずは課題図書を通読したうえで、自分が一番おもしろいと思える哲学者(学派・テーマ)を見てください。その後で、必要に応じて関連する入門書なども読んでみましょう。可能であれば、その哲学者自身が書いた著作(一次文献)にもあたってみましょう。 古代・中世の哲学を学ぶ際のポイントは、そこでの用語(「ある」「ない」「一」等)の一見の簡単さに油断しないということです。シンプルな言葉ほど根本的な概念だと思って注意してください。
リポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し、その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 留意点： あくまで思想の「説明」に徹すること。
リポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人(ないしそれ以上)を選択し、両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 留意点： たんなる思想の説明にとどまらずに、受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： 『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書，2006年 ISBN4-00-431008-3 「基本教材 1」の続編で、近代から現代にいたるまでの哲学史。デカルトに始まり、スピノザ、ライブニッツ、ロック、バークリー、ヒューム、ルソー、カント、ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ベルクソン、フッサール、ハイデガー、ヴィトゲンシュタイン、レヴィナス等、多くの哲学について解説。難解かつ長大な哲学体系が、平易に、なおかつ凝縮して解説される良書です。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は、担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	全般的なアドバイスについては、「基本教材 1」と同様です。 とくに近代・現代の哲学を学ぶ際のポイントとしては、古代・中世の場合とは逆に、用語(「超越論的統覚」「情態性」等)の難解さに恐れをなさないということです。ただちには解らなくとも、粘り強くテキストを読んでいけば、少しづつ理解できるようになります。
リポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し、その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 留意点： あくまで思想の「説明」に徹すること。
リポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人(ないしそれ以上)を選択し、両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 留意点： たんなる思想の説明にとどまらずに、受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。

科目名	宗教哲学特講	担当者	イシハマ 石浜 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	人類の歴史とともに存続してきた宗教、それは私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし反面、宗教の超俗的側面ゆえに、ともすれば狂信や迷信、あるいは為政者の支配の道具となり暴走したことなど多々あった。そこで本科目では宗教の本質的な在り方とは何かという視点をもとに、宗教の持つ力と倫理的危うさ、そして今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、宗教の本来の姿を自ら研究・発見し説明できるようにしたい。そしてそれをベースとして今日の宗教的諸問題を客観的に判断し社会に発信できる能力を養う。 【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号:A-2:1, A-2:3, A-4:1, A-4:2】						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 学習者は宗教の本質の理解を通して、世界の諸宗教とその排他性ゆえに生じる諸問題を正確に理解し、あるべき宗教の姿と多様な宗教の固有の存在価値を論理的に提示することを習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に評価できるようになるために、宗教本質論と同時に宗教多元論の立場に立って、世界の多くの宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実に起こっている諸問題を説明できるようにし（知識・解釈）、さらにその解決策を指摘する（知識・問題解決）。</p>						
学修方略 (方法)	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 学習者はこれまでの一宗教のみの学修だけではなく（自習）【SB0①&②】【15時間/リポート1本】、日本固有の宗教である神道そして仏教、キリスト教、イスラム教、新宗教をも視野に入れ、それらの経典や実践の研究、関連する諸事件分析にも同等の時間を割き幅広く学ぶことに心がける（自主研究）【SB0①&②】【10時間/リポート1本】。1つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに10時間以上（リポート作成）【SB0②&④】【10時間/リポート1本】、manaba folioへの提出・再提出のやりとりに10時間以上が目安（ディベート）【SB0②&④】【10時間/リポート1本】。</p>						
スケジュール	<p>前期： 教材1のリポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目安に提出する。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期： 教材2のリポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目安に提出する。いずれの課題も次年の1月上旬までに最終稿を提出すること。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	80%	テキストを正しく理解し、課題どおりのリポートとして的確に書かれていること				
	観察記録	20%	再提出リポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること				
履修者への要望	哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ジャン・グロンダン 教材名： 『宗教哲学』(白水社・文庫クセジュ、2015年) ISBN:10-4560509999 1296円
	本書は宗教の本質を伝統的な理性と信仰という側面から、かつ古代ギリシャから現代までの歴史的な考察により、キリスト教的背景を持ちながらも宗教にありがちか一面的な見方を脱却し、宗教の普遍性と多元論的な見方の可能性を内容とする。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』(岩波新書、2冊、2006年) ISBN:4-00-431007-5 各 860円+税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』(岩波書店、1986年) ISBN:4-00-000314-3 1900円+税 波多野精一『宗教哲学序論・宗教哲学』(岩波文庫、2012年) ISBN:978-4-00-331453-1 1260円+税
履修上のポイント	哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。またテキストについてもできれば哲学的な背景が必要であるので、上記のような哲学史の入門書で基礎知識を得ておくと理解が容易となる。
リポート課題 1	テキスト第1章から第3章を読み、宗教の本質とは何かを述べなさい。 留意点： 上記の参考図書(ヒック、波多野)と比較することによって、テキストの立ち位置や内容がより明確となる。
リポート課題 2	①テキスト4, 5章を要約し哲学と宗教の関わりを述べなさい。②またはテキスト6, 7章を要約し、どのように宗教が哲学に移行していくかを述べなさい。(①②どちらか一方のみ選択) 留意点： 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 石浜弘道 教材名： 『靈性の宗教』(北樹出版、2010年) ISBN:978-4-77-930249-7 2500円+税
	宗教に基づく独善主義や狂信、迷信による事件が起こる昨今において、宗教の多様性、寛容性、普遍性を説くスピリチュアリティ・靈性の宗教が注目されている。本書はこの靈性をいち早く語ったキリスト教神学者 P. ティリッヒを通して、靈性の宗教という観点から諸宗教がその本来の在り方を逸脱したことから起きた諸問題の解決への道を内容とする。
参考図書	鎌田東二『神道のスピリチュアリティ』(作品社、2003年) ISBN:978-4-87-893593-0 1900円+税 阿部美哉『現代宗教の反近代性』(玉川大学出版部、1996年) ISBN:4-472-09881-4C3014 3456円
履修上のポイント	テキストを熟読すると同時に、宗教に内在するスピリチュアリティを中心に考える場合、宗教体験(ティリッヒという靈性の現臨)が重要なものとなるゆえ、各自宗教的世界に触れることができ。たとえば、各種の宗教行事への参加や宗教芸術の鑑賞等。
リポート課題 1	スピリチュアリティとは何か、またそれはどのような領域に働き、どのような意味、能力があり、どのような影響を私たちに与えるかを、宗教の普遍性を考慮しつつ述べなさい。その際可能であれば自分の宗教体験を合わせて述べること。 留意点： テキスト1章を中心によく読むこと
リポート課題 2	①宗教の独善と排他性から生じる事件を克服するために、その多様性を尊重しつつ、その共存を可能とするスピリチュアリティの働き・特徴を述べなさい。②あるいはこれまでに起った宗教に関係する事件を1つ紹介・分析し、その事件の内容と問題点をスピリチュアリティの視点から述べなさい。(①②どちらか一方のみ選択) 留意点： テキスト3章を中心によく読むこと

科目名	科学哲学特講	担当者	オオクマ 大熊 圭子	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、科学（とくに自然科学）の特徴や科学的な知識の獲得に関する哲学的知識を修得することにより以下の能力を身につけることを目的とする。 I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。【A-1:4】 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。【A-6:4】 【日本大学教育憲章ループリックの該当番号】															
到達目標	【一般目標（GIO）】 科学技術とのかかわりなしに生きていくことが不可能と思われる現代において、科学技術の成果を批判的に捉え、自己の生き方を自主的に確立できる知識・技能・マナーを習得する。 【行動目標（SBOs）】 科学技術特有の方法論を説明できる。（知識・想起） 科学技術分野特有の、背後にある哲学的認識論について説明できる。（知識・解釈） 表面上の問題点だけでなく、科学技術における根本的な問題点を見出すことができる。（技能） 現代社会の問題として科学技術について批判的にコミュニケーションすることができます。（態度）															
学修方略 (方法)	1. 基本教材を熟読し、ノートを作成する。不明な箇所については参考図書にも適宜あたり理解を深める。（自習）【SBO①&②】【15時間/リポート1本】 2. リポート課題に沿ってさらなる理解を深める（自主研究）【SBO②】【10時間/リポート1本】 3. リポートの草案を作成する。（リポート作成）【SBO②&③&④】【10時間/リポート1本】 4. manaba folio を利用し複数回にわたって行われるリポート添削での教員とのディスカッションによりリポートの最終版を完成させる。（ディベート）【SBO②&③&④】【10時間/リポート1本】															
スケジュール	<前期> ・リポート課題1 初稿提出期限：7月初 (最終稿提出期限=前期締切日) ・リポート課題2 初稿提出期限：8月中旬 (最終稿提出期限=前期締切日) <後期> ・リポート課題1 初稿提出期限：10月末 (最終稿提出期限=後期締切日) ・リポート課題2 初稿提出期限：12月初 (最終稿提出期限=後期締切日)															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>80 %</td> <td>教材の内容を理解できている。課題に沿って論理的に展開されている。リポート作成の基本的ルールが守られている。</td> </tr> <tr> <td>観察記録</td> <td>20 %</td> <td>添削箇所についてのみ修正というのではなく、その都度、全体を見直している。なぜ直した方がよいのかを理解している。締切りぎりぎりに提出して十分な指導を受けていないということがない。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	80 %	教材の内容を理解できている。課題に沿って論理的に展開されている。リポート作成の基本的ルールが守られている。	観察記録	20 %	添削箇所についてのみ修正というのではなく、その都度、全体を見直している。なぜ直した方がよいのかを理解している。締切りぎりぎりに提出して十分な指導を受けていないということがない。
種別	割合	評価基準														
リポート	80 %	教材の内容を理解できている。課題に沿って論理的に展開されている。リポート作成の基本的ルールが守られている。														
観察記録	20 %	添削箇所についてのみ修正というのではなく、その都度、全体を見直している。なぜ直した方がよいのかを理解している。締切りぎりぎりに提出して十分な指導を受けていないということがない。														
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・リポートの初稿提出が最終提出期限ぎりぎりになるということのないように注意すること。 ・教材や参考図書のまる写しならないように。ノートを取りながら学修を進め、十分に理解したうえでリポートを作成していくこと。単に教材や参考図書の内容をまとめたものはノートであってリポートではないので注意すること。積極的に参考図書やその他の文献を活用すること。 ・教材2については、認識論的な知識が必要問われるため、少なくとも大陸合理論・イギリス経験論、およびカントの基本的な考えについてあらかじめ学修しておくこと。また、おそらく教材1よりも学修時間が多く必要となるのでスケジュール調整をすること。 ・理解した内容をまとめるのではなく、それに関する自分の考えを明確にすること。その際に、基本教材や参考図書の内容と自分の考えとを明確に分けて述べていくこと。 															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： サミール・オカーシャ（廣瀬覚訳） 教材名： 『科学哲学』（岩波書店，2008年）ISBN:978-4-00-026896-7 1,600円+税</p> <p>科学哲学について、おもに科学の歴史との関係の中で説明を展開している。次いで、科学理論の方法及び説明について議論している。さらに、実在論と反実在論に関する問題についても論じている。テキスト後半では科学革命論を中心に議論が展開され、宗教や科学とのかかわりなどについて論じている。</p>
参考図書	<p>D. ルクール（沢崎壮宏他訳）『科学哲学』（白水社，2005年）ISBN:978-4-56-050891-6 1,200円+税 J. P. ロゼー（常石敬一訳）『科学哲学の歴史』（紀伊国屋書店，2001年）ISBN:978-4-31-400895-2 2,200円+税 A. F. チャルマーズ（高田他訳）『科学論の展開』（恒星社厚生閣，1983年）ISBN:978-4-76-990333-8 T. クーン（中山茂訳）『科学革命の構造』（みすず書房）ISBN:978-4-62-201667-0 2,600円+税 I. ハッキング（渡辺博訳）『表現と介入』（ちくま学芸文庫，2015年）ISBN:978-4-480-09655-5 1,500円+税 高橋昌一郎『科学哲学のすすめ』（丸善，2002）ISBN:4-621-04965-8 1,700円+税</p>
履修上のポイント	まず、科学、哲学、科学哲学の関係を明確にする（明確にできるかどうかも含めて）。また科学および科学哲学の歴史の重要性を考えること。特に後半では、科学革命論における歴史の役割を十分に理解すること。そのうえで、科学理論がいかなる方法で作られるか、また科学的方法にどのような特徴を見いだせるかを明らかにしていくこと。
リポート課題 1	<p>①科学で説明しないものとできないもの ②科学的実在論と反実在論 以上の2つのうち、どちらかを選択して論じなさい。 留意点： ①単に「説明しないもの・できないもの」についてまず考え、その上で「<u>科学で説明しないもの・できないもの</u>」について考えてみること。 ②観察可能・不可能という点をおさえる。</p>
リポート課題 2	<p>①客観的真理について論じなさい。 ②科学の客観性・合理性について論じなさい。 以上の2つのうち、どちらかを選択して論じなさい。 留意点： 客観的真理とは何か。それは存在するか。②科学至上主義の問題点、科学と価値について考えること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： パートランド・ラッセル 教材名： 『哲学入門』（ちくま学芸文庫，2005年）ISBN:978-4-48-008904-5 1,000円+税</p> <p>前半では、物質が存在するとはどういうことか、また物質の本性をいかにして知ることができるのかを議論している。後半では、科学的法則といつたいわゆる普遍的な知識を取り上げ、それをどのように獲得していくのか、その妥当性はどこにあるのかなどについて議論している。さらに真偽や哲学を研究することの価値についても言及している。</p>
参考図書	<p>デカルト『方法序説』（岩波書店，1997年）ISBN:978-4-00-336131-3 480円+税 カント『純粹理性批判 上』（岩波書店）ISBN:978-4-00-336253-2 940円+税 カント『純粹理性批判 中』（岩波書店）ISBN:978-4-00-336254-9 900円+税 カント『純粹理性批判 下』（岩波書店）ISBN:978-4-00-336255-6 1,080円+税</p>
履修上のポイント	このテキストを学ぶに当たっては、基本となる認識論的知識を十分に持っている必要がある。特に、カントやデカルト、バークリーなどの考えを復習しておくこと。後半では科学的知識について言及しているので、基本教材1の内容（特に後半）も前提に考えていくこと。このテキスト自体はもともと約1世紀前に書かれたものだが、その後に登場した量子力学をはじめとする現代の科学理論の妥当性なども考慮しながら読んでいくこと。
リポート課題 1	<p>「知識」について整理しまとめなさい。さらに知識とは何か、自分なりの考察を加えなさい。 留意点： テキストではさまざまな知識について分類・分析されているが、それらの関連性に注意しながらまとめていくこと。</p>
リポート課題 2	<p>普遍に関する知識について論じなさい。 留意点： まずテキストに沿って普遍の知識とは何かを十分に理解する。さらに哲学における普遍的な知識・科学における普遍的な知識について考察すること。</p>

科目名	生命倫理学特講	担当者	ハシモト 橋本 カズノリ 和法	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>生命倫理について、氾濫する情報に惑わされず、科学的に検証されたデータを基に、現状で最も新しく、かつ信頼性の高い知見を得るために、どのような文献を基に、どのように考えれば良いか、という方法論を身に付ける。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。</p> <p>課題としては癌患者などの終末期医療における緩和医療、脳死、尊厳死における現状と倫理的な問題についてと生殖補助医療におけるその医療技術の現状と社会倫理的な問題について考察を行う</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック A-1: 2 A-3:2 A-4:2 A-8:2】</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することを修得する。</p> <p>論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることを修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>生命倫理に関する課題を取り上げ、その問題点を整理し最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見いだす方法論を身に着ける。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのリポート作成に当たり、基本教材および参考文献の読み込みに 25 時間以上、Manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに 20 時間以上を目安とする。</p>						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>リポートの推敲課程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者の質疑に対して応答し、その過程を受講者全員に公開する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>リポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献検索を行い、それに対する考え方をリポートとしてまとめる。疑問が生じた場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑する。</p> <p>【学修時間】</p> <p>リポート課題 1 につき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：20 時間 ・リポート執筆：10 時間 ・リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピアレスポンスを含む）：15 時間 						
スケジュール	<p>前期：教材 1 のリポート課題(1)の締め切り：7月末（初稿）★最終提出期限=9月 19 日 リポート課題(2)の締め切り：8月末（初稿）★最終提出期限=9月 19 日</p> <p>後期：教材 2 のリポート課題(1)の締め切り：11月中旬（初稿）★最終提出期限=1月 14 日 リポート課題(2)の締め切り：12月中旬（初稿）★最終提出期限=1月 14 日</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	75%	リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、記述の論理性、自分自身の専門分野との関連性を評価する。				
履修者への要望	平常評価	25%	リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。				
	<ol style="list-style-type: none"> 1) リポートを作成する前に、取り上げる題材やリポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい(hashimoto.kazunori@nihon-u.ac.jp)。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) リポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします。 4) リポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 <p>注 1：後期の課題については、これまで生物学・生命科学を履修していない場合は、内容が難しいと思われるため、スクーリングを受講すると同時に、不明の点はメール等で問い合わせて下さい。</p> <p>注 2：本リポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 坂本百大/青木清/山田卓生編著 教材名： 生命倫理 21世紀のグローバル・バイオエシックス（北樹出版、2005年） ISBN: 978-4-77-930004-2</p> <p>バイオエシックスという学問分野は20世紀の後半に現れた新しい研究分野である。その誕生の動機から説き起こし、健康、病気、治療などの概念を整理して、バイオエシックスの個々の問題、生と死、エイズ問題、インフォームドコンセント、差別問題、パーソン論、世代間倫理など、初期に欧米で議論されていた諸問題を検討する。</p>
参考図書	ピーターシンガー『生と死の倫理』（昭和堂 1998年）ISBN: 978-4-81-229715-5
履修上のポイント	生命倫理が1970年代になって現れた全く新しい現代的な学問であること、そしてその時代の背景を理解すること。またそれが単に文系でも理系でも、社会系の学問でもなく、学際的な話題であること理解するのが肝要である。
リポート課題 1	<p>生命倫理成立の思想的、社会的背景を考察する。生命倫理が古来の医の倫理と異なること、近代的なヒューマニズムの流れにあること、従って近代的な人権思想に基づくものであることに留意し、パトナリズムからオートノミーへの思想的転換の歴史的な背景も踏まえるべきである。また1960年代の科学的技術革新に対するテクノロジー・アセスメント運動の一環としての生命倫理の性格も十分に理解すべきである。この時期の社会状況、差別問題なども分析する必要がある。</p> <p>留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること（家族や周囲の方の事例でも可）。</p>
リポート課題 2	<p>安楽死と脳死を巡る生命倫理上の議論を整理し批判する。カレン・クライン事件などのケーススタディをまず試み、その時代性を明確にする。また社会的、法的、倫理的問題を区別して論じる。脳死問題については、医学的問題、臓器移植との関連性を一般的に論ずるとともに、日本における対応の特殊性について、倫理的、民俗学的分析も付加する必要がある。</p> <p>留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること（家族や周囲の方の事例でも可）。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 坂井律子著 教材名： 「いのちを選ぶ社会 出生前診断のいま」（NHK出版 2013年） ISBN: 978-4-1408-1662-6</p> <p>2013年から「無侵襲的出生前遺伝子診断:NIPT」の臨床研究が始まり、これまでの羊水検査が行われてきた時代と比べ出生前診断を希望する夫婦が増加すると考えられる。その際に生ずる生命の選択に関する倫理的問題について論じている。</p>
参考図書	ヒト胚の作成・利用に係る指針の規定の現状について www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/life/haihu80/siryo3-2.pdf
履修上のポイント	生殖補助医療技術の発達に伴い、最近倫理的な問題が様々な面からクローズアップされてきていく。生殖医療は世代の継承に関与しており、その治療結果が個体にとどまらず子孫に影響されていく特殊性を有する。生殖に関わる倫理には、生まれてくる子の同意を得ることができないことから、施術においては自己決定権だけでは行使できない状況もありうる。こうした状況の中では人権、社会的倫理、法的な観点から生殖医療行為について論ずる必要性があると考えられる。
リポート課題 1	新たな技術としての、着床前診断、配偶子提供、代理懷胎、ES細胞、iPS細胞からの配偶子作成のいずれかを取り上げ、対象とする疾患とその診断・治療方法の原理、を論ずること。最近の生命科学技術の進展に関連する、自分自身の担当業務、または日常生活上の出来事に関する事項でも可。
リポート課題 2	課題1の診断・治療等を実施する際に生ずる倫理的問題を取り上げ、その技術的限界を踏まえた上で、これらの胎児選別、親子・家族という社会の枠組みを改変させるかもしれない問題、いかに社会のコンセンサスを得るかなどを論ずること。または課題1で取り上げた題材における、社会的な問題でも可。

科目名	社会思想史特講	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、既存の観念に縛られず、諸事象を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、現代技術がもたらした深刻な側面に柔軟に対応するために（【A-4:4】「問題発見・解決力」）、人間や生命、自然や社会のすべてを一律に、技術的に処理可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる（【A-3:4】「論理的・批判的思考力」）。</p> <p>技術の世界に生きている、この現代的状況を見据えながら（【A-2:4】「世界の現状を理解し、説明する力」）、日常生活や科学知の自明な前提を超えて（【A-5:4】「挑戦力」）、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる（【A-1:4】「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」）。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック該当番号：A-1:4, A-2:4, A-3:4, A-4:4, A-5:4】</p>						
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>日常の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観点に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 自然と文化や、人間存在をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。（知識・解釈） ii. 現代社会の様々な問題の根拠を理解し説明することができる。（知識・想起） iii. 現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。（知識・問題解決） iv. 現代社会の個々の問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。（技能） v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。（態度・習慣） <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>基本教材を丁寧に読み解きながら、日常生活や科学知の自明性のありよう、それがなりたつ根拠を丹念に考察してゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 基本教材および参考文献の読解と解釈：【20時間以上／リポート1本】 ii. リポートの執筆：【10時間以上／リポート1本】 iii. manaba folio への複数回の提出を通じてのリポートの推敲と最終稿の完成：【15時間以上／リポート1本】 						
学修方略（方法）	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基本教材及び参考文献の熟読（自習）【SBO i.】：【10時間以上／リポート1本】 ② リポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈（自主研究）【SBO ii.】：【10時間以上／リポート1本】 ③ リポートの作成（リポート作成）【SBO iii.】：【10時間以上／リポート1本】 ④ manaba folio を利用した複数回のリポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、リポートの推敲と最終稿の完成（ディベート）【SBO iv. & v.】：【15時間以上／リポート1本】 						
スケジュール	<p>最終稿提出は、前期・後期それぞれの提出期限に従う。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。</p> <p>前期（基本教材1）：リポート課題1（7月15日）／リポート課題2（8月15日）</p> <p>後期（基本教材2）：リポート課題2（11月15日）／リポート課題2（12月15日）</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	70 %	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、リポート課題に沿う論述・表現であるか。				
	平常評価	30 %	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。				
履修者への要望	<p>教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をして、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないか自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによってはじめて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『技術への問い』(平凡社ライブラリー, 2013年) ISBN:978-4-582-76800-8 1,500円+税
	古代ギリシアのポイエーシスやテクネーという言葉に含まれる意味（技術だけでなく芸術や自然の営みなども含む）を説き明かし、それを現代の産業社会における技術と対比させることで、現代技術のありようの一面性が示されてゆきます。そこから、現代社会のこの一面性にもなう危険とそれが予兆する歴史的な変化の到来を示唆しようとする試みです。
参考図書	木田元『対訳 技術の正体』(デコ, 2013年) ISBN:978-4-906905-07-2 1,100円+税 加藤尚武編著『ハイデガーの技術論』(理想社, 2003年) ISBN:978-4-650-10532-3 2,000円+税
履修上のポイント	当教材は、5本の講演論文を収めた論文集ですが、リポートの課題に直接該当するのは、「技術への問い」(7ページ～)と「科学と省察」(67ページ～)です。この二つを中心に読み進めてください。その他のものは参考資料として利用してください。「技術」等の言葉の古代ギリシア的な意味と現代的な意味の違いに留意しながら、その相違を整理することが大事な作業になります。
リポート課題 1	技術（道具）と真理（アレーティア）との関係について、ポイエーシスと集・立（Ge-stell）という点から論説してください。 留意点：技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。
リポート課題 2	技術は科学の応用ではなく、科学が技術の本質に基づくとはどういうことか、論説してください。 留意点：所収論文「技術への問い」での本質と類との意味の違いをおさえてください。所収論文「科学と省察」「伝承された言語と技術的な言語」での現実的なものや理論についての考察からも論説可能です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『芸術作品の根源』(平凡社ライブラリー, 2008年) ISBN:978-4-582-76645-5 1300円+税
	芸術作品の根源を問うために、物とは何か、道具とは何かを考察し、一つの道具であるはずの農婦の靴、それを描いた一枚の絵の中から、物や道具の真相が立ち現れてくる働きが探りだされてゆきます。そこに芸術作品のなりたちを見いだすことで、日常生活に埋もれてしまっているはずの、道具的なあり方とは違った真理のありようを問い合わせてゆく試みです。
参考図書	渡邊二郎『芸術の哲学』(ちくま学芸文庫, 1998年) ISBN:4-480-08426-6 1,300円+税 木田元『ハイデガーの思想』(岩波新書, 1993年) ISBN:978-4-00-430268-4 800円+税 木田元『哲学と反哲学』(岩波現代文庫, 2004年) ISBN:978-4-00-600127-8 1,180円+税
履修上のポイント	物、道具、芸術作品、真理、世界、大地など、鍵となる言葉について、普通の意味とは違ったどのような意味が込められているのかを理解、整理してゆくことが大事な作業になります。細かな論点よりも、議論全体の流れをつかむことを優先してください。
リポート課題 1	芸術作品に見出される道具の道具存在や物的な現実性とはどういうことか、論説してください。 留意点：支配的な物概念の不十分さ、道具の有用性と信頼性との意味の違いをおさえてください。
リポート課題 2	芸術作品と真理（アレーティア）や詩作との関係について論説してください。 留意点：芸術と美術との違い、作品と道具との違い、製造と創作との違いなどを整理し、世界とは、大地とは、その闘争とはどういうことかをおさえてください。

科目名	心理学史特講	担当者	アラカワ 荒川 歩 アユム	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	それぞれの学問領域の研究方法や基準、考え方は、合理的理由によってのみ成立するものではなく、その学問の歴史に強く依存している。そのため、それぞれの学問に新たなブレークスルーを引き起こすには、その歴史を理解する必要がある。心理学もその例外ではない。この授業では、心理学を例に、学問が現在のように形成された過程を歴史的に理解することで、既存の心理学を相対的に見ることができるようになることを目的とする。 【日本大学教育憲章ルーブリック：A-2:3, A-3:4, A-4:4, A-6:3, A-8:4】															
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>心理学が現在のように形成された過程を歴史的に理解し（知識）、現在の心理学を相対的に見る視点を獲得し（技能）、批判的に評価する習慣を身に着けること（態度）。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある研究知見をうのみにせず、その知見の成立過程に目を向けることができる ・ある研究方法による知見を絶対的なもののように考えず、その研究方法について調べる手立てを身に着ける ・代表的な心理学の立場については、その立場の成立過程について知っており、必要な際に利用することができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前に教材を読んで流れを理解したうえで、各課題に臨むこと。 各課題について本を1～2冊読む程度の準備学修は必要である。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>担当者の指導の下、教科書、参考書を手掛かりに自主的に調べて学習することが求められる。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>教科書、参考書、個人研究</p> <p>【学修時間】</p> <p>リポート課題一つにつき、完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学習：20時間 ・リポートの執筆：10時間 ・リポートの推敲と担当教員の指導に基づく修正：15時間 															
スケジュール	<p>前期：教材1のリポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のリポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を口処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も2019年1月上旬までに最終稿を提出する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート内容</td> <td>75%</td> <td>リポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。</td> </tr> <tr> <td>リポート構成</td> <td>25%</td> <td>リポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、リポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート内容	75%	リポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。	リポート構成	25%	リポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、リポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。
種別	割合	評価基準														
リポート内容	75%	リポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。														
リポート構成	25%	リポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、リポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。														
履修者への要望	<p>1) 基本教材2の課題2については、リポートを作成する前に、取り上げる題材やリポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい。</p> <p>2) 基本教材2の課題2のテーマの選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークなテーマを歓迎します。</p> <p>3) リポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4) 基本教材2の課題2で選んだテーマに関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p> <p>注1:不明の点はメール等で問い合わせて下さい。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ・鈴木朋子・荒川歩 教材名： 『心理学史(心理学のポイント・シリーズ)』(学文社、2012年) ISBN:978-4-76-201880-0 1,700円+税
	ポイントにわけて、心理学史を概説した比較的新しいテキストです。
参考図書	佐藤達哉・溝口元(編)『通史日本の心理学』(北大路書房、1997年) ISBN:4762820954 4,500円+税
履修上の ポイント	臨床心理学を題材にその現在の有り様を歴史的に相対化する経験をしたうえで、心理学が社会の中でどのように変化をしてきたかを立体的に見ることができるようになることを目指します。
リポート課題 1	日本の臨床心理学が現在のような形になるにいたった理由を理論の発展ではなく、制度の変化や社会的な出来事の影響の観点から説明してください。 留意点：千甲眼事件や戦争の影響などに特に注意をして下さい。
リポート課題 2	現場からの社会的必要性や一般市民の関心に対して、心理学はどのように応じ、どのように発展したかについて説明してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ 教材名： 『方法としての心理学史』(新曜社、2011年) ISBN: 978-4788512290 2,400円+税
	心理学がどのように成立してきたのかその背景に切り込んだ本です。基本教材1より焦点を絞つて深く洞察しています。
参考図書	デイヴィッド・ザルツブルグ著『統計学を拓いた異才たち』(日経ビジネス人文庫、2010年) ISBN:978-4532195397 1,143円+税 高橋 淩子著『心の科学史 西洋心理学の背景と実験心理学の誕生』(講談社学術文庫、2016年) ISBN: 978-4-06-292383-5 1,280円+税
履修上の ポイント	そもそも心理学とはどのような理由で生まれたのかについて考察を深め、心理学の位置づけを相対化したうえで、自分が用いる研究技法においても、それがどのような歴史に基づいて構築されているのかについて相対化できるようになることを目指します。
リポート課題 1	1879年のヴントの心理学実験室成立が心理学の成立と呼ばれるのはなぜか？その前の状況、そしてその後発展した方向性も考慮して、その理由をまとめてください。
リポート課題 2	自分が使う研究技法(統計・調査方法)のうちの1つを取り上げ、変化とその成立理由(特に社会的理由)に着目してその研究技法の歴史をまとめてください。 留意点：新しい技法をテーマに選ぶ場合はその技法の前提となった技法も含めて書いてください。あまり難しいテーマを選びすぎないようご注意ください。

科目名	心理学研究法特講	担当者	マナベ 眞邊 一近 カズチカ	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代の心理学は「科学」です。科学は、仮説の提示と経験（実験や調査・観察）による検証に基づいて発展していくシステムです。心理学が科学であるためには、客観的な経験による結果を得られるかどうかに依存します。心理学研究法は、客観的なデータを得るために実験計画および得られたデータの客観的な提示方法の学習を目的とします。【日本大学教育憲章ループリック：A-3】						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>心理学分野で論文執筆に必要な基本的なスキル（研究計画作成・データ分析・結果の記述）を習得することを目指します。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 知識・解釈：客観性の基本であるデータの「信頼性」と「妥当性」の概念が説明できる。 2) 知識・解釈：2種の実験計画法（グループデザインと少数例の実験デザイン）の相違が説明できる。 3) 知識・解釈：得られたデータに対応した適切な統計法が使用できる。 4) 知識・解釈：グラフ作成等、具体的なデータの表現のため、Excel 等が使用できる。 5) 知識・解釈：得られた結果の適切な報告（検定結果の文中での表現方法等）の仕方が説明できる。 6) 知識・解釈：論文執筆における書式（文献引用等）を適応できる。 						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行います。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>リポート作成を行うことにより目標スキルを獲得します。まずは、課題に従って基本教材とリポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「リポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のリポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。各レポートの執筆には、それぞれ 45 時間以上の学習時間が必要です。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>統計基礎の学習、Excel 等を用いた表計算およびグラフ作成スキル獲得、心理学研究執筆要項の学習等に 48 時間程度の準備学修時間を要します。全く表計算等の事前スキルがない場合は、さらに時間を要しますので、早めに学習を始めることが必要です。</p>						
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：グループデザインの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループデザインの理論的背景の理解 2) 具体的な計画の作成方法と統計処理、および結果の表現方法の学習 <p>後期：少数例の実験デザインの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 少数例の実験デザインの理解 2) 同じ目的をもつ研究のグループデザインによる実験と少数例の実験デザインによる実験の考案 <p>修得すべきスキルが多岐にわたりますので、<u>一回の草稿提出すべて学習する</u>のは困難です。前期の草稿は 7 月末日まで、後期は 11 月末日までに提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。最終稿は、前期：9月 19 日、後期：1月 14 日までに提出してください。</p>						
成績評価	種 別	割合	評価基準				
	リポート	75 %	<p>下記の点について評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) リポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「リポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？ 				
	観察記録	25 %	<ol style="list-style-type: none"> 1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？ 				
履修者への要望	<p>リポート提出システムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、リポートを書き始めて下さい。また、「リポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のリポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていないければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをリポートの最初に加え、提出して下さい。</p> <p>リポート提出システムに、紙ベースでは提示が難しいため、Web 上で追加の留意点が書かれています。見落とさないように、リポートシステムに書かれている留意点を注意深くお読みください。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫共著 『心理学研究法』(サイエンス社, 2005 年) ISBN:978-4-78-191108-3 2,200 円+税 岩淵千明編著 著者名 : 『あなたもできるデータの処理と解析』(福村出版, 2002 年) ISBN: 978-4-57-120058-8 教材名 : 2, 600 円+税【紀伊園屋出版社からお取り寄せ (通常 3 日 - 20 日で発送)】 後藤宗理, 大野木裕明, 中津潤 編 『心理学マニュアル要因計画法』(北大路書房, 2000 年) ISBN:978-4-76-282196-7 1, 500 円+税 第 1 図書は、心理学の研究法にはどの様なものがあり、その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第 2 図書では、結果の分析に必要な統計的検定についてどの様なデータや実験計画のときは、どの様な統計を利用するのかについて、フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第 3 図書は、分散分析法について概説している
参考図書	南風原朝和, 市川伸一, 下山晴彦編『心理学研究法入門調査・実験から実践まで』(東京大学出版, 2001 年) ISBN:978-4-13-012035-7 2, 800 円+税 大野木裕明, 中津潤編著『ら心理学マニュアル研究法レッスン』(北大路書房, 2002 年) ISBN:978-4-76-282264-3 1, 800 円+税 石村貞夫『SPSS による分散分析と多重比較の手順』(東京図書, 2002 年) ISBN:978-4-48-902109-1 2, 800 円+税 菅民郎『Excel で学ぶ統計解析入門』オーム社, 1999 年) ISBN:978-4-27-406546-02, 800 円+税
履修上のポイント	心理学が科学的手法を用いていることを理解した上で、それぞれの方法論のもとになった考え方を理解するようにして下さい。リポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。また、この課題は、修士論文作成に役に立つスキルを学習することを教育目標の一つとしていますので、その中の一つである心理学領域の論文の書式も学習するようにして下さい。
リポート課題 1	測定の信頼性と妥当性、独立変数、従属変数、剩余変数および統制群の意味について具体的に述べよ。また、実験計画法についてまとめよ。 留意点: 信頼性・妥当性の種類及びその検証方法、相関関係と因果関係の相違、剩余変数の統制の仕方、なぜ統制群が必要なのかについて説明して下さい。実験計画法では、分散(変動)、主効果、交互作用の意味を説明して下さい。また、要因計画、反復測定(対応のある・なし)の意味についても記述して下さい。なお、説明を加えるときは、出来るだけ具体例をあげながら説明して下さい。
リポート課題 2	t 検定、1 要因が繰り返しのある 2 要因分散分析法、および 2×2 の χ^2 検定の手順について述べた後、それぞれの検定に対応した自分で考えた架空の実験データを利用して検定を行い、その結果を報告せよ。 留意点: 統計ソフトを利用して計算して下さい。このとき、最終的な検定結果だけではなく、途中の計算結果も報告して下さい。また、架空の結果のグラフも必ず加え、文章で説明して下さい。t 検定は、対応のある t 検定と、対応のない t 検定の両方の事例を示して下さい。また、分散のあるグラフには、エラーバーをつけて下さい。エラーバーの長さは、± 1 SD (標準偏差) にしてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名 : S・H・バーロー/M・ハーセン著高木俊一郎/佐久間徹監訳 教材名 : 『一事例の実験デザイン「新装版」—ケーススタディの基本と応用—』(二瓶社, 1997 年) ISBN:978-4-93-119937-8 3,000 円+税 本書は、一事例の研究の歴史の概説に始まり、一事例研究の科学的研究デザインをまとめたものである。それぞれの実験デザインの利点と問題点、および統計による検定法について紹介した一事例研究のバイブル的著書である。
参考図書	アルバート・トルトマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992 年) ISBN: 978-4-93-119915-6 岩本隆茂、川俣甲子夫著『シングル・ケース研究法—新しい実験計画法とその応用 Keiso Psychology』(動草書房, 1990 年) ISBN:978-4-32-610083-5 4, 500 円+税
履修上のポイント	履修上のポイント 心理学に限らず、大標本を用いた研究ができるないケースが少なからずあります。この様な場合、少数例のデータを利用して、いかに科学的に研究するのか?どの様な根拠にもとづいて少数例の実験デザインは考案されたのかを理解するようにして下さい。リポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。
リポート課題 1	少数例を用いた実験デザインにはどういうものがあるかまとめよ。 留意点: グループデザインとの基本的な考え方の相違および、少数例の実験デザインの歴史的発展について述べた後、各デザインについて説明してください。このとき、それぞれのデザインの利点と問題点を指摘してください。また、ベースラインおよび繰り返し測定の意義、さらに、独立変数導入時に一変数導入が基本であることの理由についても記述してください。
リポート課題 2	ある技能に対する訓練方法 A の効果について、実験的に検討したい。このとき、特別な訓練をしなくても時間経過に伴ってその技能はある程度向上し、また、一度訓練されると、元の低いレベルに戻ることはないことが知られている。この様な場合、どの様な実験計画を立てるか、グループデザインと、少数例を用いた実験デザインの両方の計画を考案せよ。 留意点: 両デザインの違いが分かるように説明し、出来るだけ具体的な実験例をあげて下さい。また、架空の実験結果を、両デザインともグラフと文章で表現して下さい。グラフは、テキストのグラフに準拠して下さい。また、課題の実験では、グループデザインにおける統計的検定および小数例の検定が可能ですので、検定も加えて下さい。

科目名	認知心理学特講	担当者	ヤマモト マナ 山本 真菜	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	認知心理学の概念、理論などの基礎的事項の学習とともにとくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について、テキストの読解を通じて理解する。本講座では、人の心や行動についての論理的思考・批判的思考、問題発見・解決力の修得により以下の能力を身につけることを目的とする。 1. 豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を論理的な課題に適切に適応できる能力を身に着けるために、認知心理学に関する概念や理論を理解できる力を身に着ける【A-1:4】 2. 論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともにその限界を認識する力、問題解決の方法と手順を立案し、問題を解決できる力を身に着けるために、認知心理学における問題の捉え方や考え方を身に着けその視点を用いて問題を発見し解決できるようになる【A-3:4】【A-4:4】 3. 省察力を身につけるために、認知心理学的見地から自分を認識できるようになる【A-8:4】 【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】															
到達目標	【一般目標（GIO）】 人の心や行動について、論理的思考・批判的思考をすることができ、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 【行動目標（SBOs）】 <ul style="list-style-type: none"> 認知心理学に関する概念や理論を理解することができる（知識） 認知心理学における問題の捉え方や考え方を身に着け、現実社会での問題について認知心理学的視点に基づいた解決策を提案することができる（態度） 認知心理学的知見から自分を認識することができる（態度） 															
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用したインラクティブな添削指導を実施する。 【学修方略（LS）】 教材を読み、以下のリポート課題についてリポートを作成する。事前に定められた期日までに課題のリポートを提出し、指導コメントに従って加筆修正を行いながら、最終リポートを作成する。 【準備学修項目と準備学修時間】 基本教材を熟読し不明な点は参考図書等を利用して理解を深める【25 時間/リポート 1 本】。基本教材の内容を理解した上でリポートを作成する【10 時間/リポート 1 本】。リポート提出、担当者とのやり取り、加筆修正を経て、リポートの最終版を完成させる【10 時間/リポート 1 本】															
スケジュール	前期 ：基本教材 1 のリポート課題（1）の草稿は 7 月末、リポート課題（2）は 8 月末をめどに提出するように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのリポート課題も前期の課題提出期限までに最終稿を提出する。 後期 ：基本教材 2 のリポート課題（1）の草稿は 11 月上旬、リポート課題（2）は 12 月中旬をめどに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのリポート課題も後期の課題提出期限までに最終稿を提出する。															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>80%</td> <td>リポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>平常評価</td> <td>20%</td> <td>最終稿提出前に草稿を提出し、指導コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	80%	リポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。	平常評価	20%	最終稿提出前に草稿を提出し、指導コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。
種別	割合	評価基準														
リポート	80%	リポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。														
平常評価	20%	最終稿提出前に草稿を提出し、指導コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。														
履修者への要望	【リポート課題の作成にあたって】 <ul style="list-style-type: none"> 文章表現は論文の体裁で作成してください。 自分の考えと引用した考えを区別して書いてください。引用の場合には必ず引用元を記載してください。 本文に引用した文献名は必ず文末に文献リストを設けて記載してください。 引用文献の書き方については、日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」を参考にしてください。 教材で理解できない内容があった場合には、参考図書等を基に調べて知識を得てください。 															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 森敏昭・井上毅・松井孝雄（著） 教材名： 『グラフィック認知心理学』（サイエンス社， 2017年）
	認知心理学を俯瞰するための基本的な内容が、具体的な研究結果や図表を多く用いて解説されている。
参考図書	著者名：日本認知心理学会（編） 教材名：『認知心理学ハンドブック』（有斐閣， 2013）
履修上の ポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書等を利用して理解するようにしてください。心理学関連の他科目の基本的内容も学習することが望ましい。
リポート課題 1	第1章から第6章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 留意点： 過不足なくわかりやすく要約すること。
リポート課題 2	第7章から第12章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 留意点： 過不足なくわかりやすく要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日本認知心理学会（監修）村田光二（編） 教材名： 『現代の認知心理学6 社会と感情』（北大路書房， 2012年）
	認知心理学のなかでも、とくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について取り扱われている。あわせて、感情の問題を社会的認知の視点から検討している。
参考図書	著者名：山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聰介・小森 公明（編） 教材名：『社会的認知ハンドブック』（北大路書房， 2001） 著者名：唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（編） 教材名：『社会的認知の心理学』（ナカニシヤ出版， 2001） 著者名：S. T. フィスク， S. E. テイラー（著）宮本聰介・唐沢穰・小林知博・原奈津子（編訳） 教材名：『社会的認知研究：脳から文化まで』（北大路書房， 2013）
履修上の ポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書や本書で引用されている文献を利用して理解するようしてください。認知心理学の視点から、現実社会や日常生活での現象を考えてみてください。
リポート課題 1	本書の第1部（第1章から第6章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。 全体でA4サイズ2枚程度にまとめる。 留意点： 取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。
リポート課題 2	本書の第2部（第7章から第12章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。 全体でA4サイズ2枚程度にまとめる。 留意点： 取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。

科目名	社会心理学特講	担当者	ワダ 和田 マキ 万紀	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義では、心理学の視点による社会心理学の概要と最近の研究を修得して理解する。そして、社会心理学に関連する研究を深く読み解き、社会に生きる動物としての人間を考え、理解することを目的とする。															
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】 問題発見・解決能力一事象を注意して観察して、解決策を提案することができる。論理的・批判的思考力・得られた情報を基に、論理的で客観的な思考ができる。 リーダーシップ・協働力・集団で連携をとり、協働者の力を引き出して、支援できる。</p> <p>【行動目標(SB0s)】</p> <p>心理学の視点による社会心理学の概要を俯瞰して、理解することができる。 自分の興味に基づいて、社会心理学の研究及びその成果を理解し、報告書を書くことができる。社会心理学の研究を基にして、現実社会での問題意識について、意見を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのリポート作成について、基本教材や参考書等を読み、まとめる作業に 25 時間以上。リポート提出、修正、担当者とのやりとりに、20 時間以上を目標とする。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 産業組織心理学特講、人間科学特講、調査分析特講などにおいて提供されているオープンエデュケーション教材を補助として視聴する。</p> <p>【学修方略(LS)】 1つのリポート作成について、基本教材や参考書等を読み、まとめる作業に 25 時間以上。リポート提出、修正、担当者とのやりとりに、20 時間以上を目標とする。理解が困難な場合 担当教員に Manaba-Folio を通じて質問して理解を深める。</p>															
スケジュール	<p>前期=教材 1、リポート課題1の草稿は 7 月末、課題 2 の草稿は 8 月末を目安に提出できるように学習を進める。最終稿は 9 月中旬ごろを目安にして、9月 19 日締め切りまでに提出完了する。</p> <p>後期=教材 2、リポート課題 1 の草稿は 11 月中旬、課題 2 の草稿は 12 月中旬を目安に提出できるように学習を進める。最終稿は 1 月中旬頃を目安にして、1月 14 日締め切りまでに提出完了する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>割 合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>79 %</td> <td>最終提出期限内に、最終稿を提出すること。</td> </tr> <tr> <td>平常評価</td> <td>21 %</td> <td>最終稿提出前に、必ず草稿を提出すること。草稿の提出、添削、修正、再提出、のサイクルを経ていること。</td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割 合	評価基準	リポート	79 %	最終提出期限内に、最終稿を提出すること。	平常評価	21 %	最終稿提出前に、必ず草稿を提出すること。草稿の提出、添削、修正、再提出、のサイクルを経ていること。
種 別	割 合	評価基準														
リポート	79 %	最終提出期限内に、最終稿を提出すること。														
平常評価	21 %	最終稿提出前に、必ず草稿を提出すること。草稿の提出、添削、修正、再提出、のサイクルを経ていること。														
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現は、「論文の体裁」を満たしていること。エッセイ等のように自身の関心事だけを述べて提出された場合には、評価の対象といたしません。 引用文献、参考文献、等を区別して記載して下さい。 心理学の基礎知識や理論について、不明な場合には、心理学事典等を参考しながら、知識を得たうえでリポート作成をして下さい。 															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： (1)田之内厚口編 ガイド社会心理学 北樹出版 2006 年 1900 円+税 教材名： (2)池田謙一, 唐沢壌, 工藤絵里子編 社会心理学 有斐閣 2010 年 3456 円+税 第 1 図書は、心理学の研究法にはどの様なものがあり、その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第 2 図書では、結果の分析に必要な統計的検定についてどの様なデータや実験 計画のときは、どの様な統計を利用するのかについて、フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第 3 図書は、分散分析法について概説している
参考図書	中島義明他編 心理学辞典 有斐閣 1999 年 6800 円+税 下山晴彦他編 精神心理学辞典（新版） 誠心書房 2014 年 6264 円+税
履修上のポイント	まず(1)によって社会心理学の学問領域を俯瞰して、(2)に進んで下さい。 不明な点は、参考図書等を利用して下さい。さらに他の心理学関連科目も履修することが望ましい。
リポート課題 1	1)の各章をそれぞれ 1,000 字程度に要約してまとめなさい。なお最後に、読後何を考えたのか、そして感想を述べること。 留意点：最初は字数を気にせずに記述して、それを推敲して字数に近づけるという作業をしてください。
リポート課題 2	(2)の1社会的認知・自己と他者、2社会関係から集団ネットワークへ、の2部について、各章をそれぞれ 1,000 字程度に要約してまとめなさい。 留意点：最初は字数を気にせずに記述して、それを遂行して字数に近づけるという作業をしてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： (1)池田謙一, 唐沢壌, 工藤絵里子編 社会心理学 有斐閣 2010 年 3456 円+税 教材名： (2)対人行動学シリーズ 誠信書房 または、ライブラリセレクション社会心理学 サイエンス社 (1)社会心理学について、1社会的認知・自己と他者、2社会関係から集団ネットワークへ、3社会、組織、文化の中の個人、から構成されている。最近の研究や知識の深化を目的とした内容 となっている。 (2)対人行動学シリーズ、または ライブラリセレクション社会心理学、は、テーマごとに最近の研究例を紹介している。
参考図書	中島義明他編 心理学辞典 有斐閣 1999 年 6800 円+税 下山晴彦他編 精神心理学辞典（新版） 誠心書房 2014 年 6264 円+税
履修上のポイント	基本教材2の(1)は、教材1の(2)と同じ教材です。 不明な点は、参考図書等を利用して下さい。さらに他の心理学関連科目も履修することが望ましい
リポート課題 1	(1)の 3社会組織文化の中の個人、の各章についてそれぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。 留意点：最初は字数を気にせずにまとめて、それを字数に近づくように推敲してください。
リポート課題 2	(2)について、自分の興味あるテーマについて1冊選択してください。そして、その図書について、各章についてそれぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。 留意点：自分の興味がどのように研究されているのか、その成果はどのように社会心理学の観点から考察されているのか、という点からまとめてください。 最初は字数を気にせずにまとめて、それを字数に近づくように推敲してください。

科目名	産業・組織心理学特講	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義では、心理学の応用領域の一つである産業・組織心理学の概要を理解し、最終的には産業・組織心理学で得られた知見が職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているかについて考えることを目的とする。 I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。【A-3:2】 II. 問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。【A-4:3】 III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。【A-1:1】							
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】 心理学の応用領域を理解し、得られた知識を自分の所属する職場にどのように反映できるかを考え、改善策を提案する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業・組織心理学における研究領域とその概要を理解することができる。 ・産業・組織心理学で得られた知見が、職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。 ・自分にとって最も関心のある産業・組織心理学のトピックについて討論し、レポートに纏めることができる。 							
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、リポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>【学修時間】</p> <p>1つのリポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 ・リポート課題の執筆：10 時間 ・Manaba-Folio へのリポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間 							
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のリポート課題 1：6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 1 のリポート課題 2：8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のリポート課題 1：11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 2 のリポート課題 2：12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月中旬までに最終稿を提出する。</p>							
成績評価	種別	割合	評価基準					
	リポート	79 %	<ul style="list-style-type: none"> ・最終提出期限内に提出されなかったリポート課題は、（原則的に）0 点となります。 ・リポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたリポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。 					
	平常評価	21 %	<ul style="list-style-type: none"> ・最終提出までに Manaba-Folio 上でリポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 ・草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのリポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。 					
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・リポート課題といえども、論文の体裁で書いて下さい。 ・いずれのリポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがリポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 ・産業・組織心理学は心理学の応用領域の一つですが、心理学の「応用」領域を理解するためには、心理学の基礎知識や基礎的理論の理解が問われます。心理学の基礎用語が分からぬ場合は、「参考図書」に目を通してください。 							

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	(1)著者名：田中堅一郎 編著 教材名：『産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950563-8 2,800円+税 (2)著者名：ベイザーマン, M.H. / ムーア, D.A. 著, 長瀬勝彦 訳 教材名：『行動意思決定論 バイアスの罠』(白桃書房, 2011年) ISBN:978-4-561-26563-4 3,800円+税
	教材 1 (1)の内容は「仕事への動機づけ」「人事評価制度」「人事測定の方法」「職場の人間関係と意思決定」「職場集団におけるリーダーシップ」「職場のストレスとサポート」「組織における協力と葛藤」「有能感が推進するキャリア発達」「売り手と買い手の心理学」「心理学で用いられる統計の基礎的知識ガイド(特論1)」「産業・組織心理学史(特論2)」から構成されている。 教材(2)は、経営における意思決定について全11章から構成されている。
参考図書	中島義明ほか編『心理学辞典』(有斐閣, 1999年) ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 下山晴彦ほか編『誠信 心理学辞典 [新版]』(誠信書房, 2014年) ISBN:978-4-414-305074 6,264円 高木修 監修, 田尾雅夫 編集『組織行動の社会心理学 (シリーズ 21世紀の社会心理学 2)』(北大路書房, 2001年) ISBN:978-4-76-282224-7 2,500円+税 ロバート・B・チャルディニー『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか [第三版]』(誠信書房, 2014年) ISBN:978-4-41-430422-0 2,700円+税
履修上のポイント	参考図書に示された『心理学辞典』『誠信 心理学辞典 [新版]』をもとに、分かりにくく専門用語を確認したり、心理学関連の他科目も学習することが望ましい。
リポート課題 1	基本教材 1 の(1)について、1章から9章、および特論2の各章を要約し、全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を800字以内で要約し、全体についてのコメントを付記すること（合計10,000字以内で収めること）。
リポート課題 2	基本教材 1 の(2)について、1章から11章の中から、自分の興味・関心のあるものを1章選び、その章の内容を自分の興味・関心の高い事柄を中心に、3,000字～4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もリポート作成の必要に応じて引用すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：森下高治ほか著 教材名：『クローズアップ メンタルヘルス・安全 (現代社会と応用心理学4)』(福村出版, 2015年) ISBN:978-4-571-25504-5 2,400円+税 本書は、メンタルヘルス、ヒューマンエラー、リスクマネジメントに関する応用心理学の視点から、20のトピックを中心に3章から構成されている。
参考図書	中島義明ほか編『心理学辞典』(有斐閣, 1999年) ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド』(白桃書房, 2003年) ISBN:978-4-56-123386-2 2,100円+税 谷口弘一・福岡欣次『対人関係と適応の心理学 ストレス対処の理論と実際』(北大路書房, 2006年) ISBN:978-4-76-282527-9 2,400円+税 坂野雄二 監修『学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』(北大路書房, 2004年) ISBN:978-4-76-282408-1 2,800円+税
履修上のポイント	基本教材1と内容的には重複している箇所もあるが、内容的には(基本教材1と比べて)やや臨床心理学や安全工学との関連が強い。しかし基本教材1の内容が十分理解されていれば、教材2はさほど晦澁とは感じられないと思われる。
リポート課題 1	基本教材2の3章を要約し、全体についてのコメントを述べること。 留意点：各節を3000字以内で要約し、全体のコメントを付記すること（合計9,000字以内で収めること）。
リポート課題 2	基本教材2を構成する20のトピックの中から、自分の興味・関心のあるものを1つ選び、その内容を当該書に示された「引用・参考図書」も参照しながら、3,000字から4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もリポート作成の必要に応じて引用すること。

科目名	臨床心理学特講	担当者	菊島 勝也 キクシマ カツヤ	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	臨床心理学実践の中で、教育臨床をとりあげ、子どもに対する臨床心理学的な支援について学習する。特に、発達障害をはじめとした、様々な問題を抱えている子どもに対して、学校場面でどのような支援が行われているかについて焦点をあて、理解を深めることを目的とする。						
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力 異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。 ○社会に貢献する姿勢 社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。 以上の点を踏まえて、発達障害を持つ子どもに、実際の生活場面でどのような困難やつまずきが生じるのか、具体的なイメージを持てるようになること。 <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。 ○自ら考える <ul style="list-style-type: none"> ・論理的・批判的思考力 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 ・問題発見・解決力 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 ○自ら道をひらく <ul style="list-style-type: none"> ・挑戦力 あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。 ・コミュニケーション力 他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。 ・リーダーシップ・協働力 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。 ・省察力 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる <p>以上の行動を通じて、困難を抱える子どもに対して、どのような支援ができるのか理解を深めること。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 発達障害を持つ子どもにこれまで関わる機会の無かった方は、なるべく具体的なイメージを持っていただきたい。一般向けの本などもたくさん出ているので、それらをあたることも助けとなると思われる。1つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>						
学修方法	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材を読み、下記のリポート課題についてリポートを作成する。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。</p>						
スケジュール	基本教材1のリポート課題(1)(2)を終了後、同じく基本教材1のリポート課題(3)(4)を作成する。						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	100%	課題及び教員からの指導に対して、適切な内容がまとめられていること。また、それに対する、独自の意見や疑問が記述されていること。				
	平常評価						
履修者への要望							

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 阿部利彦（著） 教材名： 『見方を変えればうまくいく！特別支援リフレーミング』 （中央法規、2013年）ISBN:978-4-8058-3859-4 2,000円+税</p> <p>著者は発達障害を持つ児童生徒に対して、主に学校場面で非常に先駆的な支援を行ってきた専門家である。本書は、3章から構成されており、特別支援の基本的な考え方、さらにたくさんの事例と対応方法が紹介され、専門家だけでなく、教員や保護者にも理解が深まるような配慮がなされており、初学者にとってわかりやすく大変有益な内容であるといえる。</p>
参考図書	<p>佐藤暁『自閉症児の困り感に寄り添う支援』（学研、2007年） ISBN:978-4-05-403366-5 1,700円+税</p> <p>川上康則『〈発達のつまずき〉から読み解く支援アプローチ』（学苑社、2010年） ISBN:978-4761407315 1,500円+税</p> <p>文部科学省（2012）『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』（文部科学省HPで閲覧可能）</p>
履修上のポイント	発達障害を持つ子どもに対する支援については、以下の点を十分踏まえておく必要がある。(1)授業場面では教育的な配慮が必要であり、本人のハンディキャップに応じた授業の工夫がなされるべきであること。(2)家庭場面では親のストレスや負担となるべく減らし、まず良好な親子関係をつくることを支えていく事が求められること。(3)その上で、子ども自身のこころの健康な成長を支えるような支援が必要であること。(4)これらの支援はバラバラに行われるのではなく、それぞれが連携をしながら、実施されるべきであること。以上の点について、教材を読む事で、より具体的に理解が深まることが望まれる。
リポート課題 1	<p>教材第1章を読み、自分で重要であると感じたり、興味を持った部分を中心に要約を行い、それに対する自分の意見や疑問を書きなさい。</p> <p>留意点：まず発達障がいがどのようなもので、どのような種類があるかについて、教材とは別に調べ、把握しておくことが望ましい。</p>
リポート課題 2	<p>教材第2章 CASE1～5までを読み、自分が興味を持ったケースを2例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p>留意点：提案する1つ1つの支援プランについて、(1)どのような方法か、(2)その方法を実施することでどんな効果が期待できるか、を必ず含めること。</p>

基本教材 2

教材の概要	<p>著者名： 基本教材1と同じ。 教材名：</p> <p>基本教材1と同じ。</p>
参考図書	<p>佐藤暁『見て分かる困り感に寄り添う支援の実際』（学研、2006年） ISBN:978-4-05-403152-4 1,700円+税</p> <p>阿部利彦（編著）『クラスで気になる子の支援 ズバッと解決ファイル』（金子書房、2009年） ISBN:978-4-7608-2347-5 1,700円+税</p> <p>文部科学省（2007）『「特別支援教育支援員」を活用するために』（文部科学省のHPで閲覧可能）</p>
履修上のポイント	学校場面での子どもへの支援においては、いわゆるカウンセリングなどの心理療法的な視点からの支援だけでなく、教授法、教材の工夫、療育、生活指導、ケースワーク等、様々な視点から「役に立つ」方法を組み合わせて柔軟に用いることが必要であることを、具体的に学習することが望まれる。
リポート課題 1	<p>教材第2章 CASE6～10までを読み、自分が興味を持ったケースを2例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p>留意点：正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。</p>
リポート課題 2	<p>教材第2、3章 CASE11～16までを読み、自分が興味を持ったケースを2例とりあげ、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p>留意点：正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。</p>

科目名	医療心理学特講	担当者	トビタ イトコ 飛田 伊都子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本科目は、医療心理学として応用行動分析学の基本的な行動の原理を基盤に、患者もしくは医療者の行動変容を促す技法を気につけることを目的とする。医療現場においては、患者に対しては運動遵守や食事制限、医療者に対しては規程遵守など、行動変容が求められる場面が多い。これら多くは、患者教育や医療者教育として「医療者もしくは管理者が指示する方法」が採用されているが、「当事者が実行するための援助」とはいえない。患者自身・医療者自身が行動を変容させ、自律的に実行できるようにする技法が必要である。 【日本大学教育憲章ループリック : A-1:4, A-3:4, A-4:3】															
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】</p> <p>問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>医療場面における問題解決のために、人の問題行動を観察し、ABC（先行条件・行動・結果）分析ができる。さらに、ABC分析に基づき、結果の操作によるアプローチ（強化）及び先行条件の操作によるアプローチ（弁別）を計画できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba-Folioでのやりとりに15時間以上を目安とする。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-Folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p><u>基本教材1</u>：教材に従って、基本的な行動原理のうち特に「強化」「弁別」を十分に理解していただきたい。その上で、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、その行動アセスメントとして、ABC分析を実施して行動随伴性を明らかにする。その問題行動を解決するために、結果の操作（強化）及び先行条件の操作（弁別）による行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p><u>基本教材2</u>：教材に基づき、新しい行動を形成する方法を学習する。第Ⅲ部から第Ⅴ部まで詳述された行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について医療場面の具体例を検討する。ここでは、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」として、「分化強化」「先行子操作」の技法を学習し、行動変容のためのアプローチを検討する。</p>															
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> • リポート課題1 締切：6月末（初稿）★最終稿提出期限=9月19日 • リポート課題2 締切：8月末（初稿）★最終稿提出期限=9月19日 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> • リポート課題1 締切：10月末（初稿）★最終稿提出期限=1月14日 • リポート課題2 締切：12月末（初稿）★最終稿提出期限=1月14日 															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>70%</td> <td> 1) 学習された教材内容が要約として示されていること 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) リポートの形式的条件を満たしていること </td> </tr> <tr> <td>平常評価</td> <td>30%</td> <td> 1) 草稿用リポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) リポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) リポート提出など、学習スケジュールが適切であること </td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	70%	1) 学習された教材内容が要約として示されていること 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) リポートの形式的条件を満たしていること	平常評価	30%	1) 草稿用リポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) リポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) リポート提出など、学習スケジュールが適切であること
種別	割合	評価基準														
リポート	70%	1) 学習された教材内容が要約として示されていること 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) リポートの形式的条件を満たしていること														
平常評価	30%	1) 草稿用リポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) リポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) リポート提出など、学習スケジュールが適切であること														
履修者への要望	<p>1) 以下に行動変容法を臨床応用した事例を紹介している著書および研究論文を紹介するので、参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『行動分析学：行動の科学的理解をめざして』（有斐閣、2018年） ISBN: 9784641221024 2,100円+税 • 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版、2015年） ISBN: 9784772414487 3,600円+税 • 坂上貴之（2014）看護すること（nursing）を支援する学としての行動分析学：随伴性のアレンジによる行動変容。看護研究, 47 (6), 506-520. <p>2) リポートは、教材による学習内容を要約した上で、課題に応用して論じて下さい。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 服巻 繁, 島宗 理 教材名： 『対人支援の行動分析学（改訂版）』（ふくろう出版, 2008年） ISBN:9784861863639 1,900円+税</p> <p>本書は行動の法則、行動のアセスメント、介入効果を評価するためのシングルケーススタディを含めた行動変容アプローチの基礎知識について、実践的にわかりやすく説明されている。さらに、問題行動に対するポジティブなアプローチ、恐怖や不安へのアプローチ、セルフマネジメント、パフォーマンスマネジメントを通して行動変容のための方法論が具体的に説明され、さらに、リハビリテーションを含む医療分野への応用として具体例が示されている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> P. A. アルバート, A. C. トールマン（佐久間, 谷, 大野, 訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社, 2004年）ISBN:9784861080159 3,200円+税
履修上のポイント	<p>行動は環境との相互作用である。問題行動と思われたとしても、どの様な場面で引き起こされ、その結果何が生じているのか、的確にアセスメントすることが必要である。まず、教材に従って学習した後、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、行動アセスメントとしてABC分析を実施して、3項強化随伴性を学習する。次に、問題行動を解決する技法を学習し、なかでも結果の操作（強化）並びに先行条件の操作（弁別）によるアプローチを学習していただきたい。</p>
リポート課題 1	<p>医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、問題と思われる行動について、行動アセスメントとしてABC分析を行い、その3項強化随伴性について論じなさい。 留意点: 医療施設内の病棟や外来を含む環境の中での患者もしくは医療者の行動を例に挙げると良い。患者としての自分の行動を観察するのも良い。簡単な例として、「ゴミをベッド下に散乱する安静臥床患者」、「運動訓練を嫌がる患者」、「薬を飲み忘れる患者」、「頼みにくい医師や看護師」、「外来で歩き回る患者」など、参考にしていただきたい。</p>
リポート課題 2	<p>脂質異常症（高脂血症）患者（男性、身長170cm、体重80kg）が運動してBMI25未満72kgまで体重を減らすように指示されたが、万歩計の1日の歩数を増加させることができません。各自で情報を追加して事例を設定し、なぜ歩数が増加しないのか、「歩く」行動についてABC分析を行い、「強化」と「弁別」によるアプローチを論じなさい。 留意点: 行動変容へのアプローチのうち、「結果の操作によるアプローチ（p80）」「先行条件に焦点を当てたアプローチ（p99）」を理解することを目的とする。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー（園山、野呂、渡部、大石、訳） 教材名： 『行動変容法入門』（二瓶社, 2006年）ISBN:9784861080258 3,600円+税</p> <p>本書は、第1部「行動と行動変化の測定」、第2部「基本的な行動の原理」、第3部「新しい行動を形成する方法」、第4部「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」で構成されている。第1・2部が行動分析学の基礎がわかりやすく記され、第3・4部には行動変容を導く技法がわかりやすく述べられている。具体例が多用されているため、行動変容法について医療場面に置き換えて学習することができる。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> P. A. アルバート, A. C. トールマン（佐久間, 谷, 大野, 訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社, 2004年）ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版, 2015年）ISBN:9784772414487 3,600円+税
履修上のポイント	<p>基本教材2の第1部は行動の測定、第2部は基本的な行動原理のうち特に「強化」「刺激性制御」を、十分に理解していただきたい。第3部から行動変容法が詳しく示されている。 本講では新しい行動を形成する方法として、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について学習する。その方法として前者は結果にアプローチする「分化強化」を、後者は先行条件にアプローチする「先行子操作」を中心に学習する。</p>
リポート課題 1	<p>望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について、医療場面の具体例を示して、「分化強化」を用いて論じなさい。 留意点: 望ましい行動形成の医療場面として、「構音の学習」、「嚥下方法の学習」、「松葉杖の使用方法の学習」、「人工肛門造設後のケア方法の学習」、「小児へのトイレトレーニング」等が例として挙げられる。これらを参考にして具体例を検討していただきたい。</p>
リポート課題 2	<p>新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について、医療場面の具体例を示して、「先行子操作」を用いて論じなさい。 留意点: 対象となる例として「採血など新しい技術の指導場面」「新しい道具の操作の指導場面」等が例として挙げられる。これらを参考にして具体例を検討していただきたい。</p>

科目名	行動分析学特講	担当者	オノ 小野 ヨウイチ 浩一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>行動分析学はアメリカの心理学者 B. F . スキナー (1904–1990) によって創始された学問体系で、大きく 2 つの領域に分かれる。実験的行動分析学は動物や人間を対象とする実験研究に基づいて行動の基礎的メカニズム、働きについて研究し、応用行動分析学は、教育、臨床、福祉、産業など人間社会のさまざまな問題の解決に取り組んでいる。現在では、従来のオペラント条件づけやレスポンデンクト条件づけの枠を超えて、環境や組織、社会システム全体の中で人間の行動を理解しようとする方向に進んでいる。</p> <p>そこで、「行動分析学特講」では、行動分析学の基礎的な理論と技法の習得に加えて、最新の研究成果や日常場面での応用についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>(日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号 【A-2:3】【A-3:4】)</p>															
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】 行動分析学というユニークな世界観・人間観に基づく学問を通して、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観、論理的かつ批判的な思考力、問題を発見し解決策を提案する力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 行動分析学の理論と技法について実証的データに基づいて理解するとともに、その理論や技法の背景となっている人間観や世界観について説明できること。(知識・問題解決、技能) (2) 行動分析学の臨床応用領域における実践方法を学び、社会的場面における行動技法活用の利点や問題点について説明できること。(知識・問題解決、技能) <p>【準備学修項目と準備学修時間】 基本教材および参考図書を精読し、課題についてのポイントを整理しておくこと。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】なし</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>(1) リポート課題を念頭に置きながら基本教材を精読する (自習、学修時間 : 10 時間)。(2) リポート課題に関連する文献、資料を参考にしながら問題点を整理し、リポートの骨格をまとめる (自主研究、学修時間 : 15 時間)。(3) リポートの執筆 (リポート作成、学習時間 : 10 時間) (4) レポートに対する担当教員とのディスカッションを通して最終稿を作成する (ディベート、学習時間 10 時間)</p>															
スケジュール	<p>前期 : 基本教材 1 のリポート課題 1・2 の初稿は 8 月上旬を目処に提出する (別々でもよい)。 いずれの課題も 9 月 19 日 (リポート提出最終期限) までに最終稿を提出する。</p> <p>後期 : 基本教材 2 のリポート課題 1・2 の初稿は 12 月上旬を目処に提出する (別々でもよい)。 いずれの課題も 2020 年 1 月 14 日 (リポート提出最終期限) までに最終稿を提出する。</p>															
成績評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">種 別</th> <th style="text-align: center;">割 合</th> <th style="text-align: center;">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">リポート</td> <td style="text-align: center;">90%</td> <td>(1) リポートの構成と内容が課題に対応しているか。 (2) 教材の理解度 (3) 論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のある文章であるか。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">観察記録</td> <td style="text-align: center;">10%</td> <td>受講姿勢 (担当者との円滑なやりとりなど)</td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割 合	評価基準	リポート	90%	(1) リポートの構成と内容が課題に対応しているか。 (2) 教材の理解度 (3) 論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のある文章であるか。	観察記録	10%	受講姿勢 (担当者との円滑なやりとりなど)
種 別	割 合	評価基準														
リポート	90%	(1) リポートの構成と内容が課題に対応しているか。 (2) 教材の理解度 (3) 論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のある文章であるか。														
観察記録	10%	受講姿勢 (担当者との円滑なやりとりなど)														
履修者への要望	<p>教材を読んでよく理解するよう努めてください。ここでよく理解できた状態とは、教材の章や節の内容を、それを知らない心理学専攻学部生がよく分かるように説明できることを指します。</p> <p>テーマに沿い、かつ論点が明確で躍動感のあるリポートを望みます。</p> <p>リポートは長ければいいというものではありません。かといってあまり短いのも困ります。その課題を記述するのに必要最小限の長さということを意識して書いてください。</p> <p>リポートに受講者自身の考えを盛り込むことを歓迎しますが、その際は、自分の意見と他の記述とが区別できるように書き方の工夫をしてください。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小野浩一 教材名： 『行動の基礎』(培風館、2016年改訂版) ISBN: 978-4-563-05247-8 2,600円+税 行動分析学と学習心理学の知見を実証的データに基づいてまとめた本である。内容は4つのパートからなり、第一部では徹底的行動主義を貫く行動分析学の考え方、人間観、世界観が分かりやすく述べられ、第2部と第3部ではヒトが備えている2つの行動、レスポンデント行動とオペラント行動がさまざまな実験例とともに具体的に述べられ、第4部でオペラント行動研究のさらなる展開が紹介されている。
参考図書	実森正子・中島定彦『学習の心理』(サイエンス社、2000年) ISBN: 4-7819-0953-1 1,500円+税 スキナー、B.F. (山形浩生訳)『自由と尊厳を超えて』(春風社、2013年) ISBN: 978-4-86110-341-4 2,381円+税
履修上のポイント	本課題は「行動目標（1）」を実現するためのものである。基本教材である『行動の基礎』を中心に据え、参考書『学習の心理』をあわせて基本的な事柄を習得しよう。さらに、参考書『自由と尊厳を超えて』により、スキナー自身の言葉から行動分析学の人間、社会、文化についての考え方を親しむことができる。
リポート課題 1	「レスポンデント行動」についてその概要を述べたのち、それが私たちの生活とどのように関わっているかについて考察せよ。
リポート課題 2	「オペラント行動」についてその概要を述べたのち、それが私たちの生活とどのように関わっているかについて考察せよ。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー / 園田茂樹ほか訳 教材名： 『行動変容法入門』(二瓶社、2006年) ISBN: 978-4-86108-025-8 3,600円+税 行動分析学の原理を実際の社会における問題の解決にどのように活かすことができるかを丁寧に解説した書である。応用に用いられる基本的行動原理の紹介のあと、「新しい行動を獲得する方法」、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」、およびその他の代表的な技法が具体例とともに分かりやすく述べられている。
参考図書	プライア、K. (河嶋孝・杉山尚子訳)『うまくやるために強化の原理』(二瓶社、1998年) ISBN: 978-4-93-119955-2 1,400円+税
履修上のポイント	この課題は「行動目標（2）」を実現するためのものである。参考図書『うまくやるために強化の原理』は、イルカのトレーナーであった著者が執筆した行動分析学の入門書で、基本教材とあわせて読むと理解が深まると思う。
リポート課題 1	問題行動を減らすために用いることができる方法について整理し、またそれらを適用する際の問題点について述べよ。
リポート課題 2	行動変容法における先行子操作としての「刺激性制御」とはどのようなものであるかについて概要を述べ、それを適用する際の留意点について述べよ。

科目名	コミュニケーション 心理学特講	担当者	マナベ 真邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	コミュニケーションを円滑に行うためには、コミュニケーションスキルの獲得が必要です。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について学習した後、コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論についての学習を目的とします。【日本大学教育憲章ルーブリック：A-3, A-4】						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案できる能力を習得する。 論理的・批判的思考力：得られた情報を元に論理的な思考、批判的な思考を習得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 知識・解釈：コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化と発達について説明できる。 2) 知識・解釈：言語の基礎となる認知機能の進化と発達について説明できる。 3) 知識・解釈：発話の発達について説明できる。 4) 知識・解釈：各種コミュニケーションスキル訓練について説明できる。 5) 知識・解釈：行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善方法について記述することができます。 						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行います。</p> <p>【学修方略 (LS)】 リポート作成を行うことにより目標スキルを獲得します。まずは、課題に従って基本教材とリポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「リポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のリポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。各レポートの執筆には、それぞれ 45 時間以上の学習時間が必要です。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 知覚心理学・発達心理学コミュニケーションスキル・行動分析学の学習等に 48 時間程度の準備学修時間を要します。</p>						
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：コミュニケーションに関連する知覚と発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションに関連する知覚の理解 2) コミュニケーションの発達の理解 <p>後期：コミュニケーションスキルと行動分析学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションスキルと訓練方法の理解 2) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案 <p>心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。前期の草稿は 7 月末日まで、後期は 11 月末日までに提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めています。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。最終稿は、前期：9 月 19 日、後期：1 月 14 日までに提出してください。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	75 %	下記の点について評価します。 1)留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2)リポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3)「リポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？				
履修者への要望	観察記録	25 %	1)締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2)草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？				
	リポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、リポートを書き始めて下さい。また、リポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出してください。また、「リポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のリポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていないければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをリポートの最初に加え、提出して下さい。						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 深田博己編著 『コミュニケーション心理学：心理学的コミュニケーション論への招待』 (北大路書房, 1999年) ISBN:978-4-76-282160-8 2,500円+税 【紀伊國屋在庫僅少】</p> <p>教材名： 重野純著 日本音響学会編『音の何でも小事典：脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』(講談社, 1996年) ISBN:978-4-06-257150-0 1,100円+税</p> <p>正高信夫著 『0歳児がことばを獲得するとき：行動学からのアプローチ』(中央公論新社, 1993年) ISBN:978-4-12-101136-7 660円+税</p> <p>第1図書は、コミュニケーション心理学を理解するのに必要な心理学の基礎的な知識を網羅的に解説した入門書である。第2図書では、音声知覚の概説がなされている。第3図書では、コミュニケーションの基礎といわれる乳児の母親とのコミュニケーションの解説がなされている。</p>
参考図書	<p>深田博己『インタークソナルコミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』(北大路書房, 1998年) ISBN:978-4-76-282103-5 2,500円+税</p> <p>斎藤勇編『対人社会心理学重要研究集：対人コミュニケーションの心理』(誠信書房, 1987年) ISBN:978-4-41-432403-7 2,500円+税</p> <p>植村勝彦, 松本青也, 藤井政志『コミュニケーション学入門：心理・言語・ビジネス』(ナカニシヤ出版, 2000年) ISBN:978-4-88-848536-4 2,400円+税</p> <p>坂元章編『インターネットの心理学：教育・臨床・組織における利用のために』(学文社, 2000年) ISBN:978-4-76-200964-8 1,900円+税</p>
履修上のポイント	コミュニケーション心理学を理解するためには、心理学の幅広い基礎知識が必要です。出来るだけ、基本教材でとりあげている各分野の心理学にふれるようにして下さい。リポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。
リポート課題 1	コミュニケーションに関する外的(物理的)世界と知覚(心理的)世界のズレについて述べよ。 留意点：コミュニケーションに関する聴覚や視覚およびその相互作用などによって生じる現象についてまとめてください。
リポート課題 2	コミュニケーションの発達過程について述べよ。 留意点：乳児・幼児・児童と発達する過程で、母親・家族・仲間との様な相互作用を行いながら発達していくかについてまとめて下さい。このとき、どの様な要因が「発達」を促進するか記述して下さい。

基本教材 2	
教材の概要	<p>島宗理 『パフォーマンス・マネジメント』(米田出版, 2000年) ISBN:978-4-94-655307-3 1,700円+税</p> <p>教材名： 【紀伊國屋在庫僅少】</p> <p>島宗理 『インストラクショナルデザイン』(米田出版, 2004年) ISBN:978-4-94-655319-6 2,000円+税</p> <p>第1図書は、行動分析学に基づいたコミュニケーションスキルの向上法を具体的に解説した入門書である。部下のマネジメント・学校・病院・組織のマネジメントなどの具体例を学びながら、スキル向上の基本的な方法論が学べるよう構成されている。</p> <p>第2図書は、「教えること」に特化した行動分析学の応用をわかりやすく説明している。行動分析学の実践場面での具体例を学ぶことが出来る。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルトマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992年) ISBN:978-4-93-119915-6 3,059円+税</p> <p>相川充著『人づきあいの技術：社会的スキルの心理学』(サイエンス社, 2000年) ISBN:978-4-78-190966-0 1,650円+税</p> <p>R・ネルソンージョーンズ著(相川充訳)『思いやりの人間関係スキル：一人で出来るトレーニング』(誠信書房, 1993年) ISBN:978-4-41-430274-5 3,800円+税</p> <p>菊池章夫, 堀毛一也『社会的スキルの心理学』(川島書店, 1994年) ISBN:978-4-76-100527-6 3,200円+税</p> <p>眞邊一近著『ポテンシャル学習心理学』(サイエンス社, 2019年4月出版予定)</p>
履修上のポイント	第1図書は、最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また、参考図書の『はじめての応用行動分析』と読み合わせると理解が進むだろう。第2図書は、一般向けにわかりやすく書かれているが、本書の中でいわれていることの根拠を理解する上で、上記の図書を読んだ後で読むと良いだろう。
リポート課題 1	コミュニケーションスキルおよびコミュニケーションスキル訓練にはどんなものがあるかまとめよ。 留意点：コミュニケーションの過程を概説した後、個々のスキルと訓練について述べて下さい。前期の基本教材も参考にして下さい。
リポート課題 2	自分の職場あるいは家庭の人間関係やコミュニケーションでなにか問題を感じている事柄をとりあげ、ABC分析に基づいた改善策を考察せよ。 留意点：自分が考えた改善策の基礎となっている行動分析学の見・方法論が具体的にわかるように述べて下さい。ただし、企業名や個人名が特定されないように注意すること。もし個人的な問題が無ければ、地域や市町村の問題でも構いません。

科目名	生涯学習論特講	担当者	コガ 古賀 トオル 徹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座（生涯学習論特講）では、生涯学習社会を迎える現在において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、学習活動をどのように企画・構想し展開していくことができるのかを考えることを主要な「問い合わせ」とする。その様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1) 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、生涯学習社会における様々な課題のうち特に社会的かつ倫理的な課題に適切に適用することができる。【A-1:4】</p> <p>(2) 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>(3) 学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。【A-8:4】</p>															
到達目標	<p>【一般目標（G10）】 現代社会における「生涯学習」の意義や特質を理解する。（知識・理解） 諸外国や歴史的文書、各種統計データを読み取り、活用する研究技能を身につける。（思考/技能）</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <p>(1) 「教育学」の考え方、研究方法の特徴を理解し説明することができる。（知識・解釈） (2) 「生涯学習社会の到来と課題」について説明することができる。（知識・解釈） (3) スウェーデンの政策を理解し、日本の生涯学習政策の課題を抽出し解決策を形成・提案できる。（知識・問題解決） (4) 現場の取材を行い、質問事項等を考え、リサーチクエスチョンにつなげていくことができる。（技能 / 態度）</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートで完結するが、自主的な意欲をもとに「生涯学習の実践現場」を考察の対象とし、また取材を実施すること（フィールド・ワーク）と、それをレポートとして構成し、提出する作業（修正等の往復も含む）は、能動的であり、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」となる。レポートの往復（manaba folio）において、「読者」の存在を意識した論述の表現力や作法を身につけることができる。メールやmanaba folio 上での質問も受け付けている。</p> <p>【学修方略（LS）】 レポートの作成（そのための取材、資料収集と整理、構想と推敲から論文提出と、さらに修正）。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 関連する文献や情報を集める（「教育」だけではなく「少子高齢化」に関する書籍等を読み、理解することが必要となる）。そのために 25 時間以上、提出時のレポート往復（レポート指導・再提出のやりとり）に 20 時間以上を目安としている。[最低 45 時間の学修時間を要するものとする]</p>															
スケジュール	<p>リポートは前期（9月）・後期（1月）と提出期限が設定されている。「基本教材1」「基本教材2」とともに締切より一ヶ月前までに初稿を提出すること。manaba folio 上の添付で往復をすることで、完成稿へと進んでいくことになる。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>80%</td> <td>課題リポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行なわない。</td> </tr> <tr> <td>観察記録</td> <td>20%</td> <td>リポート添削への対応や往復による学修。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	80%	課題リポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行なわない。	観察記録	20%	リポート添削への対応や往復による学修。
種別	割合	評価基準														
リポート	80%	課題リポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行なわない。														
観察記録	20%	リポート添削への対応や往復による学修。														
履修者への要望	<p>前提として、どのような「教育」「学習」がいま求められているのか、これまでどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解しておいていただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は“漠然”としたものではなく深まっていく。教材①は教育学全般を理解することに役立つ構成となっている。そこに登場する人物像や概要を調べて理解を深め、理論等の用語を操ることができるレベルへ向上していただきたい。また、関連することとして、「発達」「教育」「教授」「学習」といった言葉の意味を調べ、文字に分解しての語義や、翻訳前の原語、あるいはさらなる他国言語での表現などを調べていくなど、自らの興味を深める活動、知識の幅を広げる活動をしていただきたい。そういう活動自体が「学習」や「発達」と重なってくると考えている。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 勝野正章・庄井良信 教材名： 『問い合わせはじめる教育学』（有斐閣ストゥディア、2015年） ISBN:978-4-641-15014-0 1,800円+税</p> <p>この教材は、「教育学」全般について、基礎から学ぶ人のためにと編まれたテキストである。生涯学習に限定しての専門書ではなく、その意味では、やや初歩的な内容となっているが、本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育学的な視点」という学びのためには十分に意義がある。生涯学習については、後半の第12章が該当するが、前半で「教育観」や「教育の歴史」、「（学校で）学ぶことの意味」がわかりやすく説明されている。この部分を受けて「学校教育の外の学習」である「生涯学習」や「社会教育」について、より考え深めることができる構成となっている。この教材の「構成」自体が本講義のねらいと合致するので、より広い学びのために読み進めていただきたい。</p>
参考図書	<p>麻生誠・堀薰夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会、2002年） ISBN:978-4-59-511360-4</p>
履修上のポイント	<p>リポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、いま求められる「学び」（学習）とはどういうものであるのかについて理解を深めること。参考図書にあげたもの以外でも入門書的なものを選択して読み、比較考察するとさらに学び深めることができる。</p> <p>リポート課題(2)では、「書いてあること」の実践をみることでの再確認と、実践をみることで感じとることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。</p>
リポート課題 1	<p>教材の第12章を中心によく読み、生涯学習の理念を説明し、これから学びの在り方について論じなさい。テキストの前半部分に記される「教育とは何か」という問い（教育学全般に関する記述）も理解した上で、「生涯学習」の意義や位置付けをおさえて論述すること。また「学習で身につける」ということに関する自分の考え（コメント）も記してください。</p> <p>留意点：教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆をまとめること。</p>
リポート課題 2	<p>実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪問して、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。</p> <p>留意点：ここでの活動は、「実践の場」を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい、複雑な手続きや許可が必要となるような場は避け、一般的な市民活動の場となる施設等がよい）。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 小澤徳太郎 教材名： 『スウェーデンに学ぶ「持続可能な社会」』（朝日新聞出版、2006年） ISBN:978-4-02-259892-9 1300円+税</p> <p>福祉国家としての「スウェーデン」が「持続可能な社会」のトップとして評価される社会の仕組みが描かれた書籍である。その多くは環境問題と経済成長を対象とする論述であるが、そこからスウェーデン社会における人間観を読み取ることもできる。スウェーデンやフィンランド等の北欧社会は福祉国家として知られ、資源は持たないが国民の「学習」意欲やそのための支援・環境整備が充実していることが特色の一つである。その「生涯学習」社会を実現させている背景として本教材を読んでいただきたい。</p>
参考図書	<p>谷沢英夫『スウェーデンの少子化対策』（日本評論社、2012年） ISBN:978-4-535-58608-6 3200円+税</p>
履修上のポイント	<p>スウェーデンや北欧の教育（生涯学習）に関する書籍や各種の辞典を読んでおくことから始める理解しやすいかと思う。課題(1)のねらいは、「少子高齢社会」における教育（学習）のとらえなおしについて考えるということである。少子高齢化は現代社会における重要な課題であるが、スウェーデンでは社会の取り組みとして日本と異なる結果を出している。その差違と変化の可能性を考えていただきたい。課題(2)では、「生涯学習」という言葉（名称・表現）にも含まれている「学習」という概念が、なぜ（いま）求められるのかということを考えていただきたい。</p>
リポート課題 1	<p>教材の第1～2章（19～72ページ）を読み、まず「少子高齢社会」がどのような問題を含むのかを整理すること。次にそこにはわれわれが、“生活者”というアクターとして参加することになるが、そこにおいて「生涯学習」という個人の学びがどのような意味をもつのかについてまとめなさい。後者については、直接本書の中には記されていないので、自身の考え方や他の文献から学んだ成果を反映させていただきたい。</p> <p>留意点：課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。</p>
リポート課題 2	<p>第7～9章（193～279ページ）に記されていることは、「福祉国家」という選択肢の可能性と、そのための行動（政治）の問題である。スウェーデンの政治情勢を整理し、どこが「生涯学習」社会の実現に寄与しているのか、読者として読み取ったことをまとめなさい。</p> <p>留意点：第9章の記述を中心にまとめてもよい。</p>

科目名	学校教育学特講	担当者	キタノ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。【A-1:4】</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。【A-6:4】</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。【A-7:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>															
到達目標	<p>【到達目標 (GIO)】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 12 時間以上、Manaba-Folio への提出・再提出のやりとりに 2 時間以上を目安とする。合計 4 本のレポート提出を求める。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考え方や意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論などを行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p> <p>【学修方法 (LS)】【学修方略 (LS)】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、リポートの作成、掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士が、草稿段階で相互にリポートを点検し、推敲する協働活動を行う）、リポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。</p> <p>【学修時間】 リポート課題 1 につき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：20 時間、リポート執筆：10 時間。前期で 2 本、後期で 2 本のレポートを提出。・リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間。</p>															
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が 8 月末日、後期が 12 月末日とする。最終的な締め切り日は、9 月 19 日、1 月 14 日である。通年 30 コマ分（半期 15 コマ分）の内容については manaba にて掲載予定。ガイダンスでは、科目的内容、履修のポイントなどを説明する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>90%</td> <td>課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には 5 枚</td> </tr> <tr> <td>平常評価</td> <td>10%</td> <td>メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には 5 枚	平常評価	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。
種別	割合	評価基準														
リポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には 5 枚														
平常評価	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。														
履修者への要望	<p>指定されたテキストを中心に、課題に適切に答えること。合わせて、参考図書も課題に応じて読むこと。レポートは、タイトルを付けて、章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも 4 枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度も問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 北野秋男編著『新訂 わかりやすく学ぶ教育制度』（啓明出版） 2,100 円 教材名： 北野秋男著『日米のテスト戦略』（風間書房） 2,100 円</p> <p>前者の教材は、日本や世界の教育制度改革の動向を解説している。とりわけ 1980 年以降における我が国の教育制度改革の動向を分かりやすく解説しつつ、新自由主義や新保守主義などの思想的な文脈も理解できる内容となっている。後者の教材は、今日の日米のテスト政策の類似性と差異性を分析したものである。現代のテスト政策を理解する上での基本図書である。</p>
参考図書	尾崎ムゲン『日本の教育改革』中公新書（1999 年）、児美川孝一郎『新自由主義と教育改革』ふきのとう出版（2000 年）、黒崎 勲『教育の政治経済学－市場原理と教育改革－』東京都立大学出版会（2000 年）、刈谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書（2002 年）、斎藤貴男『教育改革と新自由主義』子屋新書（2004 年）、大桃敏行編『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007 年）
履修上のポイント	現代の我が国における教育制度改革の動向を全般的に理解し、自由主義と新保守主義という理念的・思想的な背景を整理すること。次に、我が国の教育改革の動向を念頭に置きながら、日本のテスト政策を理解すること。特に、我が国の動向にも影響を与えたアメリカの「ハイステイクス・テスト」との類似性と差異性を理解すること。
リポート課題 1	<p>(1) 1980 年代以降の我が国の学校制度・教育制度改革の全体的な動向を概観すること。特に、教育制度改革の動向に注目しながら、その新自由主義・新保守主義の理念的背景に言及すること。 留意点：1980 年代以降における我が国の教育改革の理念と実態の全体的動向を概観すること。</p>
リポート課題 2	<p>(2) 我が国の教育改革の動向を念頭に置きながら、日本のテスト政策の実態と問題点を考察すること。その際に、アメリカの「ハイステイクス・テスト」との類似性と差異性にも言及すること。 留意点：日本のテスト政策を国と地方自治体に分けて考察すること。その後、アメリカのテスト政策の動向を理解し、日米のテスト政策の類似性と差異性に言及すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： J. デューイ（市村尚久 訳） 教材名： 『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫）1,050 円 北野秋男編著『日本のティーチング・アシstant制度』（東信堂）2,940 円</p> <p>前者の教材は、古典的名著とされるデューイの著作であり、我が国の学校教育にも多大な影響を与えた経験主義教育の代表作である。欧米の教授学思想の系譜に位置づけながら、デューイの思想を理解すること。後者の教材は、わが国の大学生における「学び」の変容と実態を問題とし、大学生に対する学習支援のあり方を検討するものである。とりわけ、学生の学習支援を行うティーチング・アシstant制度の重要性を理解したい。</p>
参考図書	原 聰助他編『近代教育思想を読み直す』新曜社（1999 年）、 関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版（2001 年）、 関 正夫『21 世紀の大学像』玉川大学出版部（2000 年）、 竹内 洋『教養主義の没落』中公新書（2003 年）
履修上のポイント	『教育思想のルーツを求めて』を読み、教授学思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分し、その基本理念を理解すること。その上で、デューイの著作を読むこと。次に、竹内『教養主義の没落』を読み、大学における教養主義の崩壊過程を理解した上で、現代の大学生の「学び」の問題を考察すること。大学生の「学び」の変容の実態を理解した上で、大学における「教育重視」のあり方、学生への学習支援を行うための教授改革、TA 制度などの重要性を理解したい。
リポート課題 1	<p>(1) デューイの『学校と社会』を読んで、経験主義教育の内容を記述すること。現代的視点から「学び」の問題にも言及すること。 留意点：欧米の教育思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分して、デューイの唱える教授学思想を正しく理解すること。最後に、現代的視点から、我が国の学校教育における「学び」の問題を批判的に言及する。</p>
リポート課題 2	<p>(1) 大学における「教養主義」の崩壊を理解した上で、現代の大学生の「学び」の実態を考察する。大学における「研究重視」からの脱皮、大学生の学習支援にとって有効な教授改革や TA 制度のあり方に言及すること。 留意点：基礎知識として竹内『教養主義の没落』を読むこと。その上で、指定されたテキストを中心に、大学生の「学び」の実態、教授改革や TA 制度の問題に言及すること。テキストの第 1 章から第 5 章、ならびに終章を中心に熟読して貰いたい。</p>

科目名	教育心理学特講	担当者	トキタ ガク 学	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	教育心理学の基本的な知識・理論を理解することを試みる【A-1:4】。その上で、実際の教育場面の中で、教育心理学的な視点を応用し、具体的に展開するには、どのような方略の可能性があるかについて考える端緒を持つことが可能となることを目的とする【A-1:4】。 心理学と教育学は異なる視点を持っているため、教育心理学を理解するためには、心理学の基礎的な知識も必要となるため、必要に応じて教育と関連の深い心理学的知識の確認・拡充にも積極的に努めていたいた【A-3:4】上で、ロール・プレイング（役割演技）といった手法についての学修も行い、基本的な技能を取得することを目的とする【A-4:4, A-8:4】。						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 教育心理学の知識を確かなものとし、特に教育の中においての心理学的な知識と教育技法としてのロール・プレイング（役割演技）の知識を深め応用の可能性を検討する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 教育心理学の分野において基礎的な知識を習得し使用することができる ロール・プレイング（役割演技）手法について、その基本的な考え方を理解し、技能を修得する前記した部分を通じて、教育者としての基本的な態度、習慣を形成する</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：レポート作成前の具体的体験と担当者とのやり取り（自主研究・ロール・プレイング（役割演技）体験と振り返り・担当者とのディスカッション・レポート推敲） 準備学修時間：受講生の体験に合わせて時間については適切に検討するが、【自主研究 20 時間・体験の振り返りと新たな体験 15 時間・レポート作成 10 時間×4】</p>						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材理解のための、学修体験をレポート作成に生かすことで、ロール・プレイング的考え方を身に付けていただきたい。具体的には、manaba を利用した現在までの体験の振り返りに加え、可能な限り直接指導を行いロール・プレイング体験に触れた上でレポート作成に望むこととする。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材・体験を理解した上で、課題についてのリポートを作成していただきたい。作成したレポートについては、担当教員がコメントを付すので、そのコメントを基にレポートの修正を行っていただきます。このやり取りを繰り返し行って、レポートの作成を継続し最終的に提出をしていきます。</p>						
スケジュール	<p>前期：教育心理学の基礎的理解 課題1, 2はどちらから始めてもよい。どちらの課題も早めに第一稿を作成し（6月～8月中を目標）、体験・担当教員のコメントを参考に調整し、最終稿を作成する</p> <p>後期：実践と教育心理学 課題1から初めて当該分野の理解を図る。その後、より実践的な課題2に取り組む。両課題とも早めに第一稿を作成し（課題1は11月中、課題2は12月中を目標）、体験並びに担当教員のコメントを参考に、調整して、最終稿を作成する</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	80%	①課題に対応した内容となっているか ②取り上げた理論などが適切に理解されて、自分の言葉で表現しているか ③適切な具体例が示されており、根拠となる事実が明確であり、客観的な検討がなされているか ④参考・引用文献が適切に表記されているか ○前期レポート1, 2・後期レポート1は最終稿・後期レポート2は初稿で評価を行う				
	平常評価	20%	①コメントを理解しているか ②理解したコメントに適切に対応しているか				
履修者への要望	教育心理学の枠組みを捉えて、その中で、実際の教育の中で問題となっていることについて、考察できるようになることを望みます。 また、我が国の教育ではあまり体験することの少ない手法（ロール・プレイング・役割演技）についての理解も、理論を学び、その実践について考えられるようになることを目指します。 課題レポート体裁・ロール・プレイング体験等の詳細は、履修確定後に示すことになりますので、よく理解して、進めるようにしていただきたい。						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊藤裕司 「ベーシック現代心理学 教育心理学 教材名： (第3版)」(有斐閣, 2015年) 本体 2100円+税 ISBN:978-4-64-107245-9</p> <p>教育心理学の基本的な知識を概括した入門書である。教育心理学の課題・立場・研究法に触れた後に、発達適応学級集団学習などの基本的理論と授業法、教育評価などについて、実際的な活用を概観している。</p>
参考図書	<p>大村彰道(編)「教育心理学1-発達と学習指導の心理学」(東京大学出版会, 1996年) 本体 2500円+税 ISBN:978-4-13-052072-0</p> <p>下山晴彦(編)「教育心理学2-発達と臨床援助の心理学」(東京大学出版会, 1998年) 本体 2900円+税 ISBN:978-4-13-052074-4</p> <p>森敏昭・秋田喜代美(編) 有斐閣双書「教育心理学キーワード」(有斐閣, 2006年) 本体 1900円+税 ISBN:978-4-64-105885-9</p>
履修上のポイント	<p>教材は、教育心理学について基本的な課題を扱ったものである。課題に関連する部分だけでなく、全体を通読し、教育心理学全体の理解に繋げていただきたい。さらに、参考図書を活用することを通じて、リポート作成を通じて、文献を調べる、原典に当たるなどの基本的と考えられる、レポート作成方法についても学んでいただきたい。</p>
リポート課題 1	<p>発達における代表的な理論1つ取り上げて、その理論について概説すること</p> <p>留意点：取り上げた理論が、教育心理学のどの様な領域のことであれば説明可能であるか、などを上げた理論について、概説すること。また、教材文書の直接引用は避け、取り上げた教材の基になっている文献に可能な限りあたり、レポート作成に当たること。</p>
リポート課題 2	<p>リポート課題1で取り上げた理論を基に具体的な教育場面を取り上げて、理論を基に説明せよ。</p> <p>留意点：初等中等教育の中で展開される教育実践に視点を当て、具体的な教育実践のなかで、教育心理学として、理論をもとに、説明を組み立ててみること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 千葉ロール・プレイング研究会(著), 外林 大作(監修) 教材名： 教育の現場におけるロール・プレイングの手引(誠信書房, 1999) 本体 2700円 ISBN:978-4-41-440135-6</p> <p>学習を進める上で、大切であると考えられる役割関係について、具体的な資料を示しながら、理論的背景を丁寧に解説し、具体的な実践方法もある程度網羅できている。事例研究では、少し年代的には古いが、ある程度、現場での取り組みについて、具体的な例を挙げて実践につながるようにしている。</p>
参考図書	履修決定後指示致します。
履修上のポイント	<p>ロール・プレイングは役割演技法と表記され、学習指導要領にも記載されている手法であるが、その効果的実践の効果を高めるためには、教育心理学的な基礎的知識を得ることが必要であると推察される。教材は、基本的な部分は網羅されていると考えられるので、参考図書と合わせて熟読していただきたい。また、具体的実践も必須となるので、履修決定後必要に応じて指示致します。</p>
リポート課題 1	<p>学校教育場面の中で、ロール・プレイング(役割演技)を展開するときに、教育心理学的な視点を加味する必要があると考えられるが、その中で重要と考えられる点について論ぜよ。</p> <p>留意点：教育ロール・プレイングを行う場合、心理学的な視点を持って臨むことは重要であると考えられている。本リポートではその点を踏まえ、教育心理学という観点から検討する。</p>
リポート課題 2	<p>学校教育の中での人間関係を考える。①教師と生徒の関係 ②生徒と生徒の関係 のどちらかを選択し、それらの関係の中でロール・プレイングを行うためには、どのように進めればよいか、理論的側面(含教育心理学)と、具体的側面の両面から論じること</p> <p>留意点：教育実践の場における人間関係について、ロール・プレイングを基に教育心理学の理論を用いて検討することを通じて、理論と実践についての関係を考えることが可能となるうになることが目標である。</p>

科目名	教育臨床学特講	担当者	イノウエ マサヒコ 井上 雅彦	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義では子どもや若者をとりまく様々な心理的・行動的な問題について、認知療法、認知行動療法、行動分析学の理論と手法を体験的に学び修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。【A-1:4】</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独立あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。【A-6:4】</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。【A-7:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 認知療法、認知行動療法、行動分析学の理論と手法を理解する 日常的な問題を分析し、教育に生かす力を身につける 【行動目標 (SB0s)】</p> <p>i 不安やストレスを定義する（知識・解釈） ii 認知療法・認知行動療法・行動分析の技法を説明する（知識・解釈） iii 日常場面の行動を機能分析する（技能・コントロール） iv 日常場面で生じる問題について解決方法を立案する（技能・コントロール） v 日常場面で生じる問題について行動実験を実施する（技能・コントロール）</p>						
学修方略（方法） 【LS】と 学修時間	<p>①前期・後期とも前半部分は基本教材を熟読し、認知療法・認知行動療法の基本的事項の基礎理解を深める。後半部分では指定されたワークについて、認知・行動理論に基づいた分析方法を学習する。（自習）【SBO i. & ii.】【20 時間/リポート 1本】 ②リポート課題に沿った事例及びデータを収集し分析する。（自主研究）【SBO ii. & iii. & iv. & v.】【10 時間/リポート 1本】 ③リポートの草案を作成する。（リポート作成）【SBO ii. & iii. & iv. & v.】【5 時間/リポート 1本】 ④manaba folio での掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりリポートの最終版を完成させる。（ディベート）【SBO ii. & iii. & iv. & v.】【10 時間/リポート 1本】</p>						
スケジュール	<p>①前期 （基本教材 1 リポート課題 1、2）に関しては最低でも 8 月 31 日までには第 1 回目のレポートを提出すること、9 月末日までにコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること ②後期 （基本教材 2 リポート課題 1、2）に関しては最低でも 12 月末日までには第 1 回目のレポートを提出すること、1 月 31 日までにはコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。ただし、やり取りは複数回となる可能性もあるため、コメントに十分に対応するためには前後期とも第 1 回目の提出は締め切りより早いほうが望ましい。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	70 %	形式が適切か、問題点が論理的かつ認知・行動理論の用語に基づいて説明・整理されているか、参考図書・他の論文などを適切に引用して考察されているかという観点から評価する。				
	平常評価	30 %	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。リポートの提出期限を厳守したか。受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。				
履修者への要望	実施したワークをレポートとともに PDF もしくはワードファイルにて添付してください						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： (1)竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房 2012年 1,050 円 教材名： (2)竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房 2012年 1,890 円</p> <p>認知療法は対象者の認知や行動に焦点をあて、それらの変容を通して問題解決を図る心理療法であり、うつ、不安障害、ストレス関連障害などの効果が示されてきています。また、予防的アプローチとしても教育や労働領域にも応用が期待されています。(1) が認知療法のワークブック、(2) が理論的解説書となっていますので両方を購入してください。</p>
参考図書	<p>坂上貴之・井上雅彦 『行動分析学—行動の科学的理解をめざして—』有斐閣 2018年 2100 円 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料） https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf</p> <p>厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法 治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf</p>
履修上のポイント	教材は心理療法に学習者自らが体験的に取り組みながら学習することを目標にしています。二冊とも読んで頂き、トレーニングワークを実際にやって頂くことで認知療法・認知行動療法の理解を深めることができます。参考図書は「行動分析学」は、認知行動療法の原理を学ぶことができるものです。厚労のウェブ資料は、認知療法・認知行動療法の医療現場での実施マニュアルとなっており、教材と合わせて読まれることによって、より深く学ぶことができると思います。
リポート課題 1	<p>教材を参考に「見つけ直し日記」と「行動実験ワークシート」をやってみて、うまくいった点、いかなかかった点についてその理由を考察してください。</p> <p>留意点：理由についての考察は、教材 (2) の認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。見つけ直し日記とワークシートはレポートに添付することを原則とします。</p>
リポート課題 2	<p>子どもや若者を取り巻く心理的問題に対して、リポート課題 1 のような認知療法・認知行動療法はどのように貢献できるであろうか。自ら参考文献を探し、具体から論じてください。</p> <p>留意点：取り組むべき問題の背景と実態(全国的な統計など)を具体的にあげ、認知療法・認知行動療法がどのように応用できるのか、またそれが現状困難であるとすればどのようにすれば応用可能なのかという視点から論じてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： (1) ユーナス・ランメロ他著／松見淳子監訳『臨床行動分析のABC』 日本評論社 3,465 円 教材名： (2) ポール・スタラード著／下山晴彦訳『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック』金剛出版 2,730 円</p> <p>認知行動療法は、多くの精神障害について科学的にその治療効果が実証されたものであり、我が国でもその普及が望まれています。(1) は認知行動療法の基礎になる行動分析の理論を基礎から解説し、臨床にどう生かされているかを解説した本です。実践に興味を持ちこれからさらに臨床心理学を深く学んでいく方のためのテキストです。 (2) は認知行動療法を子どもや若者に適用するためのテキストとなっています。このワークを体験していきます。</p>
参考図書	ポール・スタラード著／下山晴彦訳 「子どもと若者のための認知行動療法ガイドブック」金剛出版 2008年 2,600 円
履修上のポイント	教材で学んだことを発展させ、認知行動療法の理論を学び、ワークを体験しながら進めていきます。特に教材 (2) のワークブックにより、こころと行動の問題とその解決について学習し、考察することを目的としています。
リポート課題 1	<p>教材 (2) のワークブックにあるワークのいくつかを自ら実施してみて、それに関してうまくいった点、いかなかかった点についてその理由を考察してください。2つ以上の複数のワークを行うようにしてください。</p> <p>留意点：理由についての考察は、認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。ワークに使用したシートはレポートに添付することを原則とします。</p>
リポート課題 2	<p>教材 (1) を熟読し、自分が普段接している社会的問題を行動理論的にABC分析し、解決策について論じてください。</p> <p>留意点： I 序論、II 問題となる行動とその背景、III ABC分析、IV 解決方略という章立てで執筆してください。</p>

科目名	生徒指導論特講	担当者	シバヤマ 柴山 ヒデキ 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、子どもの生きづらさや若者の働きづらさという現状を踏まえながら、学校教育における生徒指導（生活指導）や進路指導（キャリア教育）のあり方について探究していく。その学修を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>①経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。【A-1:4】</p> <p>②仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>③創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ループリックの該当番号】</p>						
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>今日の生徒指導やキャリア教育における課題を把握できるようになるために、歴史的・社会的背景を理解し、論理的・批判的思考力を身に付けながら、今後の生活指導やキャリア教育のあり方を創造することができる。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導やキャリア教育の歴史的・社会的背景を理解することができる（知識・解釈）。 ・課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる（技能）。 ・自ら問い合わせ立てながら考察し、自分の考えを論理的に説明することができる（知識・問題解決）。 ・実践者として、これから的生活指導やキャリア教育のあり方を示すことができる（態度） 						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>リポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>【学修方略（LS）】リポート作成</p> <p>まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。とくに、基本教材1で論じられている生活指導の立場と生徒指導の立場の特徴や違いを踏まえて検討してほしい。基本教材2は、移行プロセスの現状と課題を把握し、著者が主張するキャリア教育とは何かを理解してほしい。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>リポート課題1つにつき、完成までに以下の目安に最低45時間の学修時間をようするものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本教材および参考文献の学修：20時間 ・リポートの執筆：10時間 ・リポートの推敲と最終稿の完成（教員の添削指導を含む）：15時間 						
スケジュール	<p>基本教材1のリポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>基本教材2のリポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月末、課題2は8月末に初稿を提出すること。</p> <p>基本教材2の課題1は11月末、課題2は12月末に初稿を提出すること。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	80%	<p>テキストの理解度、着眼点、論旨の明確さ、文章表現の妥当性、適切な引用など。</p> <p>形式面・内容面で不備がないこと。</p>				
	観察評価	20%	リポートの添削やアドバイスへの対応など。				
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。リポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志 教材名： 『新しい時代の生活指導』(有斐閣, 2014年) ISBN:978-4-641-22034-8 1,800円+税</p> <p>本教材は、子どもの生活現実から出発し、子どもの自主性を重んじ、子どもの社会的な自立を支援する営みとされる生活指導について論じたものである。また、子どもを理解するとはどういうことであるのか、子どもたちをいじめや暴力行為へと駆り立てる生活現実の問題についても踏み込み、生活指導のあり方を模索している。</p>
参考図書	<p>折出健二編『生活指導一生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』(学文社、2014年) ISBN : 978-4-7620-2469-6 1,900円+税 全生研常任委員会企画 竹内常一・折出健二編『生活指導とは何か』(高文研、2015年) ISBN: 978-487498-576-2 2,300円+税</p>
履修上のポイント	<p>本書を理解する際には、生活指導の理念と歴史を理解しつつ、これから的生活指導のあり方を検討していく必要がある。とくに、「生活指導」と「生徒指導」は明確に異なる概念であり、これらの違いを踏まえて考察する必要があり、本課題が「生活指導」について論じるものであることに留意すること。なお、参考図書『生活指導一生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』や『生活指導とは何か』は、生活指導に関する入門的な手引き書であり、関連する文献紹介も参考になる。</p>
リポート課題 1	<p>第Ⅰ部を読み、生活指導の原理や歴史を整理しつつ、今日の生活指導の課題について述べなさい。 留意点：今日における「生徒指導」論の問題点や課題を踏まえて考察すること。</p>
リポート課題 2	<p>第Ⅱ部を読み、子どもたちの生活現実をどのように捉えるかを整理しつつ、本書における生活指導実践の事例を取り上げ、指導のあり方に関する自分の意見を述べなさい。 留意点：本書における「子ども理解」「生きづらさ」「いじめ」「暴力」「特別なニーズ」に関する捉え方の特徴を理解すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 児美川孝一郎 教材名： 『権利としてのキャリア教育』 (明石書店, 2007年) ISBN:978-4-75-032559-0 1,800円+税</p> <p>まず、子どもと若者の「学校から仕事への移行」「大人への移行」過程の困難な状況を踏まえ、なぜキャリア教育が求められているのかを論じられている。その上で、今日におけるキャリア教育を検討しながら、子どもと若者に保障されるべき権利としてのキャリア教育を展望したものである。</p>
参考図書	<p>乾彰夫『若者が働きはじめるとき—仕事、仲間、そして社会』(日本図書センター, 2012年) ISBN : 978-4-284-30448-1 1,500円+税 本田由紀『教育の職業的意義—若者、学校、職業をつなぐ』(筑摩書房, 2009年) ISBN : 978-4-480-06523-0 740円+税 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマ一新書、2013) ISBN : 978-4480688996 780円+税</p>
履修上のポイント	<p>本書を理解する際には、学校から仕事への移行過程の変容と若者を取り巻く現状を把握しておく必要がある。参考図書『若者が働きはじめるとき—仕事、仲間、そして社会』は、若者の働きづらい現実を論じたものであり、関連する文献紹介も参考になる。また、参考図書『教育の職業的意義—若者、学校、職業をつなぐ』では、キャリア教育の問題点を指摘しつつ、「教育の職業的意義」を高めるための提案がなされている。また、基本教材と同じ筆者がキャリア教育の問題点について論じ、自らが進路を描く方法を論じたものとして、『キャリア教育のウソ』がある。</p>
リポート課題 1	<p>第一章と第二章を読み、学校から仕事へ移行過程の現状と課題について考察した上で、なぜキャリア教育が求められているのかを論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点：移行過程の変容を検討しつつ、若者がどのような困難に直面しているのかを考察すること</p>
リポート課題 2	<p>第三章から第五章までを読み、著者が提案するキャリア教育について論述し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点：今日のキャリア教育政策の問題点や課題を踏まえて考察すること。</p>

科目名	教育評価論特講	担当者	フジタ シュイチ 藤田 主一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>教育は、子どもたちがもっているさまざまな可能性を伸ばすために、教師がはたらきかける援助活動である。教育測定が個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきたのに対し、教育評価は教育を受ける子どもたちを全般的な立場でとらえるため、その対象はきわめて広範囲にわたる。この科目は、教育評価の意義と歴史、現状を学ぶとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとする目的とする。</p> <p>【日本大学教育憲章ループリック : A-1:4, A-2:4, A-3:4, A-4:4, A-5:4, A-6:4, A-7:4, A-8:4】</p>															
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 教育評価にはさまざまな観点が含まれている。教育評価の意義を学び、教育実践のあり方、児童生徒の理解と方法、具体的な技法などについての知識を増やし、今日の学校教育に携わる者として児童生徒を正しく理解し導いていく基本的能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育評価の意義、歴史、今日的課題、目標・評価について説明できる。 ②診断的評価、形成的評価、総括的評価について説明できる。 ③心理検査の目的、役割、妥当性、信頼性について説明できる。 ④具体的な心理検査の実施方法、処理、解釈について分析・評価できる。 															
学修方略 (方法)	<p>①基本教材 1 および 2 を熟読する。基本教材は、学校教育の中で教育測定と教育評価がどのように扱われてきたのか、これからどのような方向に進むべきなのか、また具体的な測定方法にどのようなものがあるのかなどについて十分に学ぶ。</p> <p>②基本教材では理解できない項目や専門用語の知識、さらに知識を増やしたい心理検査の具体例については図書館等で参考図書を閲覧し、豊かなリポート作成に心がけてください。</p> <p>【学修方略 (LS)】 リポート課題 1 本につき、完成までに以下の時間（45 時間）を目安にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材の学修 : 20 時間 ②リポートの執筆 : 10 時間 ③リポートの推敲と最終稿の完成、担当教員との添削指導 : 15 時間 															
スケジュール	<p>基本教材 1 のリポート課題（1）（2）の提出は春学期（前期）の終了まで、基本教材 2 のリポート課題（1）（2）の提出は秋学期（後期）の終了までを提出期限とする。内容等が十分でない場合にはコメントの中で指摘するので、期日までに加筆修正したリポートを再提出してください。</p>															
成績評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">種 別</th> <th style="text-align: center;">割合</th> <th style="text-align: center;">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">リポート</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td>リポート課題（1）（2）のそれぞれを 100 点満点で点数化し、その平均をもつて最終評価とする。もちろん、提出されなかったリポート課題は 0 点となる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平常評価</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割合	評価基準	リポート	100%	リポート課題（1）（2）のそれぞれを 100 点満点で点数化し、その平均をもつて最終評価とする。もちろん、提出されなかったリポート課題は 0 点となる。	平常評価		
種 別	割合	評価基準														
リポート	100%	リポート課題（1）（2）のそれぞれを 100 点満点で点数化し、その平均をもつて最終評価とする。もちろん、提出されなかったリポート課題は 0 点となる。														
平常評価																
履修者への要望	<p>参考図書は、書店または図書館で購入・閲覧できるものを取り上げた。基本教材は読みやすい文章になっているが、さらに読書したい場合や、専門用語などが不明の場合には、参考図書を併読することを薦める。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 梶田叡一 教材名： 『教育評価』（第2版補訂2版）（有斐閣双書、2010年） ISBN:978-4-64-111277-3 2,200円+税</p> <p>本書は、教育評価について学ぼうとする人のためにまとめられた基本的専門書であり、以下の各章から構成されている。序章「教育評価の意義」、第1章「教育評価の歩みと今日的課題」、第2章「教育活動と目標・評価」、第3章「形成的な評価」、第4章「到達基準に準拠した測定・評価」、第5章「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」、第6章「学校による評価の実際」、第7章「評価の心理的影響」、第8章「授業・教師・学校の評価」、終章「わが国における教育評価の展開」。</p>
参考図書	<p>田中耕治（編）『よくわかる教育評価』（第2版）（ミネルヴァ書房、2010年） ISBN:978-4-62-305914-0 2,600円+税</p> <p>梶田叡一・加藤明（監修）『改訂 実践教育評価事典』（文溪堂、2010年） ISBN:978-4-89-423701-8 2,400円+税</p> <p>梶田叡一『教育評価入門—学びと育ちの確かめのために—』（協同出版、2007年） ISBN:978-4-31-900655-7 2,000円+税</p> <p>森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語300の基礎知識』（明治図書、2000年） ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税</p> <p>東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田叡一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房、1988年） ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税</p>
履修上のポイント	教育評価という仕事は、期待される教育目標に対して子どもたちがいかにそれを達成したかを知るとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするものである。教育測定は、個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきた。これに対して、教育評価は教育を受ける人間全体を問題にする。この科目を履修しようとする人は、教育評価の歴史を学び、そしてぜひ全人的な視点で子どもたちを見つめてください。
リポート課題 1	<p>基本教材1の序章～第4章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p>留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。</p>
リポート課題 2	<p>基本教材1の第5章～終章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p>留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 花沢成一・佐藤誠・大村政男 教材名： 心理検査の理論と実際（第IV版）（駿河台出版社、1999年） ISBN:978-4411003218 2,800円+税</p> <p>本書は、教育評価法の実践的内容を含んだ心理検査法について、広範な領域にわたり論述している概説書であり、二部（「理論編」「解説編」）から構成されている。第一部の「理論編」は、I「心理検査の定義と機能」、II「心理検査の発達史」、III「心理検査の使用と作成の問題」、IV「心理検査の採点の問題」、V「心理検査の信頼性と妥当性」。第二部の「解説編」は、I「集団式知能検査」、II「個別式知能検査」、III「精神発達検査」、IV「特殊性能検査」、V「興味・態度検査」、VI「質問紙法性格検査」、VII「作業検査法性格検査」、VIII「投影法性格検査」、IX「学力検査」。</p>
参考図書	<p>上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』（第2版）（西村書店、2001年） ISBN:978-4-89-013294-2 14,000円+税</p> <p>沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎』（ナカナニヤ出版、2009年） ISBN:978-4-77-9504037 2,100円+税</p> <p>松原達哉（編）『臨床心理アセスメント（改訂版）』（丸善出版、2013年） ISBN: 978-4-621-08648-3 2,730円（税込）</p> <p>村上宣寛・村上千恵子（著）『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』（北大路書房、2008年） ISBN: 978-4762826252 2,700円（税込）</p>
履修上のポイント	最適な評価の技法・用具を選択することは、教育評価のための資料収集にとって大切な仕事である。一般的には、①教師作成テスト、②標準テスト、③観察法、④面接法、⑤作品や表現の利用、⑥事例研究などがあげられる。それらのうちどれを採用するかは、評価の目的や対象との関係で決まる。常に適切な技法・用具を選択することに心がけなければならない。この科目を履修しようとする人は、幅広い視点から子どもたちを見つめる方法を学んでください。
リポート課題 1	<p>基本教材2の第一部「理論編」のI～Vまでの全章を熟読し、その内容を2,000～3,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p>留意点：要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげることではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。</p>
リポート課題 2	<p>基本教材2のうち、第二部「解説編」で紹介している、①知能検査、②発達検査、③性格検査、④興味・態度検査、⑤学力検査の中から、4つの検査を任意（自由）に取り上げ、その内容（目的、実施方法、結果の見方、解釈など）を説明・要約しなさい。</p> <p>留意点：基本教材は必要最低限の内容を説明しているので、各種検査を紹介する部分は基本教材だけでは不十分である。参考図書を利用して調べ、豊かな文章にしてください。</p>

科目名	健康科学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	健康科学について、科学的に検証されたデータを基に、現状で最も新しく、かつ信頼性の高い知見を得るためには、どのような文献を基に、どのように考えれば良いか、という方法論を身に付けることを目的とする。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。【A-3;3】 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。【A-4;4】						
到達目標	【一般目標（GIO）】 自分自身の身近で具体的な課題を取り上げ、健康の維持・向上に関しては、ヒトの個体としての側面と、集団・社会・公衆衛生学的なアプローチの両面からの考察を行い、また生命科学の基礎的な知識を学修し、それを基にした近年の医療・生命科学技術とその応用、及び実際に応用する際の社会倫理的な問題を考察する。 【行動目標（SB0s）】 健康科学に関連する課題を取り上げ、その問題点を整理し、最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見い出す方法論を身に付ける。						
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・ manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、リポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 ・ 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、リポートを作成する。 【学修方略（LS）と学修時間】 リポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)，それに対する考え方をリポートとしてまとめる(10 時間)。manaba-folio を通してリポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。						
スケジュール	前期：教材 1 のリポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬までに最終稿を提出する。 後期：教材 2 のリポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 2020 年 1 月上旬までに最終稿を提出する。						
成績評価	種 別	割合	評価基準				
成績評価	リポート	75%	リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。				
	平常評価	25%	リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。				
履修者への要望	1) リポートを作成する前に、取り上げる題材やリポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) リポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします。 4) リポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 注 1：後期の課題については、これまで生物学・生命科学を履修していない場合は、内容が難しいと思われるため、スクーリングを受講すると同時に、不明の点はメール等で問い合わせて下さい。 注 2：本リポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 山崎喜比古、朝倉隆司(編)『新・生き方としての健康科学』(有信堂, 2017年) ISBN 978-4-8420-6589-2 2,900円+税 著者名 : (2)厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会, 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会 教材名 : 『健康日本21(第二次)の推進に関する参考資料』(2012年) (厚生労働省ホームページより入手可能) http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkounippon21.html</p> <p>(1) 健康科学に関し、全般的にまとめられたテキスト。基礎的な側面は基本教材2課題1のテキスト(『現代生命科学』)が参考となる。 (2)は2012年に厚生労働省によって、今後5年間の健康活動への取り組みについてまとめられた資料である。基礎的な側面には触れられていないが、参考文献も盛り込まれており、日本としての健康科学の取り組みを知る上では準拠すべき資料となる。</p>
参考図書	竹内康浩・田中豊穂監修 『テキスト健康科学 改訂第2版』(南江堂, 2017年) ISBN 978-4-524-25885-7 2,600円+税
履修上のポイント	本課題においては、健康の維持・向上のための取り組みについて、ヒト個体に対するアプローチと、人間集団に対するアプローチの両面から考察する。 取り上げた教材・参考図書は、あくまで一つの参考資料に過ぎず、必要な文献は自分で調べること。特定の疾患を対象とする場合は、各々の診療ガイドラインを参照すること(ガイドラインに批判的な見解であっても構わない)。
リポート課題1	まず、「健康とは何か」について、自分なりに定義すること。その際、ヒトとして避けられない加齢・疾患・死への対処も含めて考察すること。その上で生活習慣が関連する疾患(高血圧、糖尿病等；ガン、肥満を含む)から一つ取り上げ、ヒト個体の観点からその原因に関して考察し、その対策について述べなさい(例：高血圧に関し、食習慣や運動不足との関連について)。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること(家族や周囲の方の事例でも可)。
リポート課題2	生活習慣が関連する疾患(高血圧、糖尿病等；ガン、肥満を含む)から一つ取り上げ、人間集団の観点からその原因に関して考察し、その対策について述べなさい(例：高血圧に関し、職場・地域社会での取り組みや食文化との関連について)。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること(家族や周囲の方の事例でも可)。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名 : 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名 : 『現代生命科学 第2版』(羊土社, 2019年2月発行予定) 2,800円+税</p> <p>生命科学の基礎的な知識に関し、最新の情報を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は、『理系総合のための生命科学(第4版, 2018年)』でも可。</p>
参考図書	<p>(1)福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書, 2007年) ISBN 978-4-06-149891-4 740円+税 (2)厚生労働省『研究に関する指針一覧』 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/ (3) 経済産業省『遺伝子検査に関する注意事項』 http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/bio/pdf/leaflet.pdf</p>
履修上のポイント	生命を構成する基本的なメカニズムを学修し、近年の医療分野への応用に関する方法論と、倫理的な問題点について考察を行う。これまで生命科学にあまり馴染みの無い場合は、スクーリング時の講義を参照すること。
リポート課題1	新たな医療方法としての、遺伝子診断、遺伝子治療、再生医療(iPS細胞治療)、移植医療等のいずれかを取り上げ、対象とする疾患とその診断・治療方法の原理、及び期待される結果を論ずること。最近の生命科学技術の進展に関連する、自分自身の担当業務、または日常生活上の出来事に関する事項でも可(例: 遺伝子組み換え食物)。
リポート課題2	課題1の診断・治療等を実施する際に生ずる倫理的問題を取り上げ、その技術的限界を踏まえた上で、本人・家族への説明と同意、及び社会的コンセンサスを得るかを、論ずること。または課題1で取り上げた題材における、社会的な問題でも可。

科目名	安全学特講	担当者	アラセキ ヒトシ 荒 関 仁志	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	安全学とは、様々な分野で取り組みがなされてきた安全に関する技術や考え方と共に共通する、安全の「理念的側面」、「技術的側面」、「人間的側面」、「組織的側面」などの安全関連分野を総合的に考察しようとする取り組みです。【A-1:4】 特に、従来からの安全工学的取り組みに、人間行動の信頼性評価などの人間因子、個人の社会的背景などの社会的因子や、われわれを取り巻く環境因子などを考慮することを目指します。【A-3:4】 本講座では、失敗、危機、事故などの直接的に安全を脅かす原因や結果を考慮しつつ、安全工学を元に、人間因子、社会因子や環境因子な様々な影響を考えた『安全対策・技術・文化』を考察し、かつ修得できることを目的とします。【A-4:4】						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 社会に存在する、安全を脅かす様々な要因（組織的要因、慣習的要因、ヒューマンエラーなど）を理解し、その上で、安全を確保するための知識と手法を理解・修得することを目的とします。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 我々の身の回りで起きている事故等を事例に、その安全学的分析する知識を適用することを修得できる。 ② 安全分析から導き出される危険因子を特定し、その危険因子を事前に類別し、理解することができる。 ③ または危険を生じさせないための手法を選択し、創造することができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p>						
学修方法（方法） 【LS】と学修時間	<p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 指定教科書および参考文献を自習で熟読してください。【SBO①】【25時間／1冊】 ② 安全解析手法を自習で取得してください。【SBO①&②】。 ③ リポート作成は、前期リポート課題1の作成には約20時間が、前期リポート課題2の作成には、約25時間をそれぞれ必要とします。また、後期リポート課題1の作成には約25時間が、後期リポート課題2の作成には、約30時間をそれぞれ必要とします【SBO②&③】。 <p>※ 参考文献等を読む場合やリポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。ト提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p>						
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ① リポートの受付は何時でも行っていますので、リポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【5月～】 ② リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、リポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り1ヶ月前には草稿レポートを必ず1本は提出してあること】 ③ レポート提出は、前期提出締め切りは9月19日、後期提出の締め切りは1月14日となっていますので、ご注意ください。 <p>※ リポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。</p>						
成績評価	種 別	評価基準					
	リポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に関する基本的な解析手法を理解できたか。 ・ 安全に関する要因分析手法を取得できたか。 ・ 安全に関する対策を提案できるか。 ・ 安全に関する質問や疑問を解決できたか。 ・ 安全に関する議論が行うことができるか。 ・ 疑問や不明な点などをメール等で解決できたか。 					
履修者への要望	日頃、安全に関する疑問や安全に関する取り組みに興味を持っている学生を歓迎します。特に、身の回りで起こる「ヒューマンエラー」や「ヒヤリ・ハット」などの対策に関心がある学生を歓迎します。						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 芳賀繁 教材名： 『失敗のメカニズム』(角川ソフィア文庫, 2003年) ISBN:978-4-04-371601-2 629 円+税</p> <p>身の回りのさまざまな失敗の事例を紹介し、その事例から失敗の本質を解き明かすことで『失敗のメカニズム』を解説します。この本を読むと、ミスをおかしやすい人や組織、環境とはどのようなものなのかが理解できます。また、本人の意図に反して自身や周囲に被害を与えてしまう人間の行動(失敗)を「ヒューマンエラー」と位置付け、多くの事例をあげてそのしくみをわかりやすく解説し、その対策を考えるためのヒントを提供します。</p>
参考図書	<p>エリック・ホルナゲル著、小松原明哲監訳『ヒューマンファクターと事故防止』(海文堂, 2006年) ISBN:978-4-30-372992-9 3,300 円+税</p> <p>ジェームズ・リーズン著、佐相邦英監修『組織事故とレジリエンス』(日科技連, 2012年) ISBN:978-4-81-719353-7 4,000 円+税</p>
履修上のポイント	我々の身の回りでは、様々な「ヒューマンエラー」が発生します。例えば、「財布を落とした」や「会社に遅刻した」、「傘を電車に忘れた」など。我々の日常は「ヒューマンエラー」で出来ているといつてもいいくらいです。そこで、本講義では、我々の身の回りの様々な「ヒューマンエラー」を調査し、それらの事例を分類し、それらの「ヒューマンエラー」がどのようなメカニズムで発生したのかを考察することを目的とします。
リポート課題 1	あなたの身の回りの「ヒューマンエラー」を調査し、その調査した「ヒューマンエラー」を教材に従って分類し、その分類した「ヒューマンエラー」の防止策を提案してください。
リポート課題 2	比較的最近に起こった「新聞等で取り上げられたヒューマンエラー」を調査し、それらのを社会文化に着目して、その「ヒューマンエラー」を教科書に沿って分類し、その上でその「ヒューマンエラー」を防止するための提案を自分なりに提案してください。

基本教材 2	
教材の概要	<p>向殿 政男、『入門テキスト 安全学』(東洋経済新報社, 2016年) ISBN : 9784492223703, 2,376 円(税込)</p> <p>著者名： または、シドニー・デッカー、小松原明哲、十亀洋監訳 教材名： 『ヒューマンエラーを理解する』(海文堂, 2013年) ISBN:978-4-30-372994-3 3,300 円+税</p> <p>従来の「モノづくり」を中心とした「安全工学」では、最近の非常に複雑で危険性の高い社会では、「ヒューマンエラー」を適切に解析・防止することが難しいことが分かつてきました。そこで近年、従来の「安全工学」に「人間の要因（心理学・人間工学など）」を考慮することの重要性が指摘されています。これが「安全学」です。 そこで、安全管理に携わる専門家や組織の決定に責任を有するリーダーは、こうした安全問題の全体像を把握しておく必要があります。本書では「安全学」の全体像と重要事項について解説している数少ない書籍です。</p>
参考図書	<p>村上陽一郎『安全学』(青土社, 1998年) ISBN:978-4-79-175679-7 1,800 円+税</p> <p>ローナ・フィリン、ポール・オコンナー、マーガレット・クリチトゥン著、小松原明哲、十亀洋、中西美和訳『現場安全の技術—ノンテクニカルスキル・ガイドブック』(海文堂, 2013年) ISBN:978-4-30-372996-7 3,900 円+税</p> <p>エリック・ホルナゲル著、小松原明哲監訳『社会技術システムの安全分析—FRAM ガイドブック—』(海文堂, 2013年) ISBN:978-4-30-372998-1 2,800 円+税</p>
履修上のポイント	前期で考察した「ヒューマンエラー」の事例調査を元に、身の回りにあるマシンや我々の生活を左右するマシン（環境）の安全を様々な解析手法を使って考察することを目的とします。 具体的には、過去に起こった様々な事故などを、教科書で説明されている様々な解析手法や評価手法を使う方法を習得します。
リポート課題 1	身近で起こった事故事例を取り上げ、教科書に記述されている「事故分析手法」を使って、該当事例を解析し、安全対策を提案してください。リポート作成では「どのような事故分析手法」を使ったかを明示してください。
リポート課題 2	最近の事故(原発事故や釜子トンネル事故など)を、新聞等で調査し、その上で解析・評価し、自分なりの安全対策を提案してください。リポート作成では「どのような事故分析手法」を使ったかを明示してください。

科目名	人間工学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	人間工学の目的と社会に果たす役割を説明し、人間工学的な思考の必要性と重要性を工学的な立場から理解することを目的とする。 1)得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。【A-3;4】 2)事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。【A-4;4】 3)集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。【A-7; 2】															
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>具体的には人間の行動、能力と限界を客観的に捉え、人間と道具や器械との関係をヒューマン・マシーン・システムとして考えることにより、仕事場の環境改善、安全性の向上、疲労とストレスの減少、快適性の向上、さらに仕事の満足感と生活の質の向上により、人間工学が人間の活動や作業の有効性と能率を高めることに貢献している事を示す。さらにヒューマンエラーが生じるメカニズムを人間の特性の観点から勉強し、エラーを防ぐための方策について考察する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>1)実際に身の回りの題材を取り上げることで、人間工学の考え方がどのようなものであるか、自分の経験を基に、リポートとしてまとめる。</p> <p>2)ヒューマンエラーに関し、人間の特性（個人と集団の両面）からその原因を考察し、対応策を考えることを学修する。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、リポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、リポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>リポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)，それに対する考え方をリポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してリポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。</p>															
スケジュール	<p>前期：教材 1 のリポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材 2 のリポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 2020 年 1 月上旬までに最終稿を提出する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>割 合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>75%</td> <td>リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。</td> </tr> <tr> <td>平常評価</td> <td>25%</td> <td>リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。</td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割 合	評価基準	リポート	75%	リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。	平常評価	25%	リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
種 別	割 合	評価基準														
リポート	75%	リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。														
平常評価	25%	リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。														
履修者への要望	<p>1) リポートを作成する前に、取り上げる題材やリポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい (izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) リポートは、簡潔明瞭にまとめる心を心掛けて下さい。</p> <p>4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 横溝 克己、小松原 明哲 教材名： 『エンジニアのための人間工学(改訂第5版)』 (日本出版サービス, 2013年) ISBN : 978-4-88922-124-4 2,940 円+税
	人間工学の基礎となる人体計測や作業姿勢の計測、手足と道具の関係、視覚・聴覚表示や音声伝達方法、安全性や環境などと人間工学の関わりを具体的な例から学ぶ
参考図書	(1) 岡田有策『ヒューマンファクターズ概論』(慶應義塾大学出版会, 2005年) ISBN 978-4-7664-1173-7 2,500 円+税 (2) 小川 鑑一『イラストで学ぶ看護人間工学』(東京電機大学出版局, 2008年) ISBN 978-4-501-41640-9 3,000 円+税
履修上のポイント	人間工学がカバーする領域を理解し、人間工学的思考の着眼点の持ち方、思考の過程を学ぶ。リポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと一緒に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とする。
リポート課題 1	日常生活において、人間工学的思考が配慮されていると考えられるものを例にあげ、ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。 留意点：人体計測値、作業姿勢、手や足の機能、視覚表示など。選択した理由、客観的な観察、主観的な自分の主張を含めること。
リポート課題 2	日常生活において、人間工学的思考が配慮されていないと考えられるものを例にあげ、ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。 留意点：人体計測値、作業姿勢、手や足の機能、視覚表示など。選択した理由、客観的な観察、主観的な自分の主張を含めること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 河野 龍太郎 教材名： 『医療におけるヒューマンエラー 第2版』(医学書院, 2014年) ISBN:978-4260019378 2,800 円+税
	著者は元々航空管制官であったが、その時に自分自身で体験したエラー事象を基に、その後、心理学を勉強し、原子炉の運転に関するヒューマンエラー対策の仕事等を経て、現在では自治医科大学で医療安全学の講座を担当している。人間の行動特性を基に、エラーが生ずるメカニズムやその対応策をどのように考えるべきかが、具体的に解説されている。
参考図書	(1) 篠原一光、中村隆宏(編)『心理学から考えるヒューマンファクターズ』 (有斐閣, 2013年) ISBN 978-4-641-18411-4 2,600 円+税 (2) 島崎敢著『心配学』(光文社新書, 2016年) ISBN 978-4-334-03899-1 760 円+税 (3) 佐藤幸光、佐藤久美子『医療安全に活かす医療人間工学』(医療科学社, 2007年) ISBN 978-4-86003-376-7 2,500 円+税
履修上のポイント	身近に経験した具体的な事例を取り上げ、ヒューマンエラーの生じる原因を探求し、その予防・防止策を考案する。
リポート課題 1	医療に限らず、身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル、あるいはヒヤリ・ハット事象を一つ取り上げ、その事象に関連したヒト個人としての特性の観点から原因を考察し、対応策を考案しなさい。 留意点：なるべく自分自身で経験した、または身近に生じた事象を取り上げること。交通事故でも可。
リポート課題 2	医療に限らず、身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル、あるいはヒヤリ・ハット事象を一つ取り上げ、その事象に関連する人間集団・組織の観点から、原因を考察し、対応策を考案しなさい。 留意点：なるべく自分自身で経験した、または身近に生じた事象を取り上げること。

科目名	環境生理学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	環境や運動が生体に及ぼす影響について、身近で具体的な課題を通して、基礎的な人体生理・生化学的な側面から学修することを目的とする。 1)得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。【A-3;4】 2)事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。【A-4;4】 3)あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。【A-5;3】															
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】 環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、精神心理や社会生活の観点も含めて学修することを目的とする。応用問題として「宇宙環境」を取り上げ、このような特殊な環境が人体にどのような影響を及ぼすか、さらには宇宙を含めた特殊な条件下での作業に従事するためには、どのような身体的要件が求められるのかを考察する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1)身体活動の様々な側面に対し、定量的に評価する手法を身に付ける。またある特定の身体活動について、多角的な側面から考察することを学修する。</p> <p>2)特殊な環境における人体生理の変化と適応、また特殊環境で生じる医学生理学的な問題に対処する方法論を身に付ける。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、リポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、リポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 リポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をリポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してリポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。</p>															
スケジュール	<p>前期：教材 1 のリポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材 2 のリポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 2020 年 1 月上旬までに最終稿を提出する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>割 合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>75%</td> <td>リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。</td> </tr> <tr> <td>平常評価</td> <td>25%</td> <td>リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。</td> </tr> </tbody> </table>							種 別	割 合	評価基準	リポート	75%	リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。	平常評価	25%	リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
種 別	割 合	評価基準														
リポート	75%	リポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。														
平常評価	25%	リポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。														
履修者への要望	<p>1) リポートを作成する前に、取り上げる題材やリポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい (izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) リポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします（基本教材 1 課題 1 を除く）。</p> <p>4) リポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p> <p>注：本リポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 勝田茂・征矢英昭編 『運動生理学 20 講(第3版)』 (朝倉書店, 2015年) 著者名 : ISBN 978-4254690460 3,200円+税 教材名 : (2) 厚生労働省 運動基準・運動指針の改定に関する検討会 『健康づくりのための身体活動基準 2013』 2013年 (厚生労働省ホームページより入手可能) http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/undou/index.html</p> <p>(1) スポーツ・運動生理学に関し、比較的最新の知見を基にまとめられたテキスト。 (2) 健康日本21(第二次)の推進に資するため、厚生労働省でまとめられた運動の指針。各年代における運動への取り組みの方針が、科学的な知見を基にバランス良くまとめられている。</p>
参考図書	<p>(1) 田中 喜代次, 木塚 朝博, 大藏 倫博 編著 『健康づくり・介護予防のための体力測定評価法(第2版)』(金芳堂, 2013年) ISBN 978-4-7653-1554-8 2,600円+税 (2) 小澤 淩司 福田 康一郎 編 『標準生理学(第8版)』(医学書院, 2014年) ISBN 978-4-260-01781-7 12,000円+税</p>
履修上のポイント	自分自身の生活パターンを通じて、生理学的な活動を定量的に評価する方法を学修する。その上で環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生理学的な側面はもとより、生化学・栄養学の基礎的な側面から、精神心理面や社会生活における位置付けを含め、自分自身の経験を基に、具体的な課題を取り上げて考察を行う。
リポート課題 1	自分自身の1週間の行動記録(食事・睡眠パターンを含む)を付け、それを基に運動レベル(運動強度、消費エネルギー、運動の質等)、摂取した栄養素、及び生活パターンについて解析する。次に自分が理想とする運動習慣がどのようなものかを考察する。この運動には家事を含めた日常生活上の活動、及びデスク・ワーク以外の職場での身体活動を含む。 留意点: 歩数計(または活動度計)を所有する場合は、そのデータも参照すること。
リポート課題 2	特定の運動を一つ取り上げ、その運動が身体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生化学、身体生理学、バイオメカニクス、生体リズム、精神心理、及び社会の中における活動の観点から、考察を行う(運動の例; マラソン、登山、球技、あるいは日常生活上の行動を対象としても可)。 留意点: なるべく自分自身の経験を基にすること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名 : 立花正一監修 教材名 : 『宇宙飛行士はどんな夢をみるか?』 (恒星社厚生閣, 2016年) ISBN 978-4-7699-1587-4 3,000円+税</p> <p>国際宇宙ステーションでの経験を踏まえ、宇宙滞在が人体に及ぼす影響について、一般の方にも分かりやすく解説された書。</p>
参考図書	<p>(1) 藤田真敬監修 『宇宙航空医学入門』(鳳文書林, 2015年) ISBN 978-4-89279-425-4 3,400円+税 (2) 国際宇宙ステーション・きぼう利用推進委員会 宇宙医学分野研究シナリオ WG 『2020年までの宇宙医学分野の ISS/きぼう利用シナリオ』(宇宙航空研究開発機構[JAXA], 2012年) (無料; http://iss.jaxa.jp/utiliz/jp_scenario_med.html) (3) 石岡憲昭著 『宇宙生命科学入門』(共立出版, 2017年) ISBN 978-4-320-04732-7 2,700円+税</p>
履修上のポイント	宇宙という特殊環境を題材として、そのような環境が人体に及ぼす影響、及び各種の職業・日常生活において、必要とされる身体要件について考察する。取り上げた教材・参考図書は、あくまで一つの参考資料に過ぎず、必要な文献は自分で調べること。
リポート課題 1	長期宇宙滞在が人体に及ぼす影響(筋骨格系萎縮、体液シフト、放射線、精神心理等)の中から一つ取り上げ、その対策について述べる。 留意点: 現在、国際宇宙ステーションで取り組まれている健康管理対策や医学的な研究活動は、JAXA や NASA(米航空宇宙局)のホームページから参照することが出来る。
リポート課題 2	宇宙飛行士、あるいは他の職業(例えば航空機パイロット、公共機関の運転士)への従事に際し、特にその職業に求められる安全配慮の観点から、どのような身体的要件が求められるかを考察する。次に、その身体的要件を緩和するための医学生理学的な対応策も考案する(例: 車の運転について、加齢に伴う身体機能の低下が問題となるなら、医学生理学的にどのように対処すれば、その問題点を克服出来るか)。 留意点: 職業に関しては、必ずしも特殊な技能だけを取り上げる必要はなく、自動車の運転等的一般的な技能・業務でも構わない。なお、民間航空パイロットの身体要件については、(財)航空医学研究センターの航空身体検査マニュアルが参照可能。 http://www.aeromedical.or.jp/manual/index.htm

科目名	スポーツ運動学特講	担当者	コヤマ ユウゾウ 小山 裕三	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	スポーツ運動学では、現象学的立場から人間の運動の構造と発生について学ぶことを目的とする。具体的には、運動モルフォロギーの方法を基に進められてきたスポーツ運動学研究のこれまでの文献やその研究方法などを精査し【A-4:4】、その中で取り扱われる運動質や、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法といったいくつかのキーワードを基に、自身が対象とするスポーツにおけるスポーツ運動学的観点からの包括的な理解を深める【A-3:4】。						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 スポーツ運動学における運動質、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法がどのような事を意味し、どのように研究していくべきかについての方法論を理解する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 スポーツ運動学における運動モルフォロギーを中心とした主要な研究課題が、どのような課題であるかを整理し（知識・解釈）、これまでの知見を基に、自身の対象とするスポーツでの課題についてその課題を発見し、解決するためのスポーツ運動学的観点からの方法論を示すことができる（知識・問題解決）。</p>						
学修方略 (方法)【LS】と 学習時間	<p>①基本教材を熟読し課題に取り組むにあたり、必要な用語や表現の理解を深める（自習）【25時間／リポート1本】 ②リポート課題で自分が対象とするスポーツにおける技術に関する課題を分析する（自主研究）【10時間／リポート1本】 ③リポートの素案を作成する（リポート作成）【5時間／リポート1本】 ④manaba folio の掲示板機能を用いて教員および受講生と作成した素案を基にディスカッションを行い最終的なリポートの作成を行う（ディベート・リポート作成）【10時間／リポート1本】</p>						
スケジュール	<p>前期：教材1のリポート課題(1)については7月末日、課題(2)は8月末日を目処に提出すること。 取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も9月19日までにまとめて提出する。</p> <p>後期：教材2のリポート課題(1)については11月下旬、課題(2)は12月下旬を目処に提出すること。取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も2020年1月14日までにまとめて提出する。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	80%	内容については、課題に対する妥当性、これまでの文献精査からの知見の反映、研究対象とするスポーツに関する自身の考察がふくまれるか否か、その他リポートの構成を含めて評価する。				
	観察記録	20%	ポータルシステムを用いたリポート作成に関する積極的な態度などを評価する。				
履修者への要望	<p>①リポートを作成する前に、リポートのテーマや構成について、数回直接面接を行い相談することが望ましいです。叶わない場合はメール等で連絡相談して下さい。</p> <p>②リポートのテーマとして設定するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが対象とするスポーツに一定程度の理解がある種目を選択してください。</p> <p>③リポートの構成については、参考文献の記載の仕方も含め別途指示しますのでその内容に従い記述してください。</p> <p>④スポーツ運動学に関する最新の知見を概観し、リポート作成に必要な文献は積極的に確認してください。</p> <p>⑤その他質問等がある場合はメール等で連絡してください。また、面接の必要がある場合は、必ず事前にメール等で相談してください。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：①朝岡正雄 著 教材名：「スポーツ運動学序説」(不昧堂出版, 1999年) ISBN: 4-8293-0380-8 6300円+税 著者名 ②三木四朗 著 教材名：「器械運動の動感指導と運動学」(明和出版, 2015年) ISBN: 978-4-901933-37-3 2200円+税
	① スポーツ運動学に関する用語等の整理などに必要な手引き的テキスト ② 運動学習及び創発能力を考える際に必要な実践例が多く取り扱われているテキスト
参考図書	金子明友・朝岡正雄 編著 「運動学講義」 ISBN: 978-4-469-26177-6 (大修館書店, 1990) 2000円+税
履修上のポイント	本課題においては、スポーツ運動学で取り扱われる競技力、体力、技術、戦術などの理解を深めた上で課題に取り組み、そこで取り上げるべきテーマについてスポーツ運動学的観点から考察する。指定した教材・参考図書に加えて、これまでのスポーツ運動学での文献を精査し取り入れること。
リポート課題 1	スポーツ運動学的観点からの運動技術の理解を踏まえ、自身が対象とするスポーツにおける運動技術を1つ挙げその技術の運動学習の過程を自身の経験も含め記述しなさい。 留意点：運動技術、運動学習とはどのように説明されるのかを理解しておくこと。
リポート課題 2	課題1で取り上げた運動技術に対して自身が持つコツ、カンを運動学習の位相ごとに精査し、そのコツ、カンについてどのような創発能力によって支えられているのかを含め記述しなさい。 留意点：コツ、カンとはどのような意味を持つのかについて理解しておくこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：森直幹 著 教材名：動きの感じを描く ISBN: 978-4-901-93338-4 (明和出版, 2015) 2200円+税
	運動における動きの特徴について画で示し、その動きのポイントを解説するために必要なテキスト
参考図書	ウルリヒ・ゲナー著 佐野淳 朝岡正雄 監訳 「スポーツ運動学入門－スポーツの正しい動きとは何か－」(不昧堂出版, 2003) 3000円+税
履修上のポイント	スポーツ運動学の文献等で実際に用いられている画で示されている動きの特徴やその動きに内在する動きのポイントについて前期リポートで取り扱われた創発能力と指導に必要な促発能力との関連性を理解し、自身の運動指導や運動技術の捉え方について自ら表現することを含め考察を行う。
リポート課題 1	スポーツ運動学的観点からの運動指導の理解を踏まえ、自身が対象とするスポーツにおける運動技術を1つ挙げその運動技術にとって重要な場面をいくつか取り出し、教材及び文献を参考に作画しなさい。その際になぜその場面を取り出したか、その場面が重要な理由等を付記すること。 留意点：作画が困難な場合は連続写真をトレースするなどして対応すること。
リポート課題 2	課題1で取り出された運動技術における指導上のポイントについてその運動の特性や促発能力の観点を踏まえ、記述すること。 留意点：促発能力に関して理解を深めておくこと。

科目名	スポーツ医学特講	担当者	ホテヤコウ 布袋屋 浩	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、スポーツ医学の基礎的知識の修得により、スポーツ活動中に多いケガや病気について理解を深めることで【A-1:4】、これらの対処法や予防法を身に付け【A-4:4】、そして競技力向上に役立てるために、自分なりの視点から論ずることができるようになる【A-8:4】ことを目的とする。 さらに、近年の平均寿命の延長とともに要介護者の急激な増加といった社会的問題に対する解決策の一つとして、ロコモティブシンドロームについて理解し【A-1:4】、スポーツ医学の知識を応用することで運動器の障害をいかに予防し健康で長生きするか【A-4:4】、すなわち健康寿命をどうやって延ばすかを考える【A-8:4】。						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力：スポーツにおける諸問題の課題解決のために、スポーツ医学の知識を理解し、スポーツ現場における問題解決方法を修得し、具体的な解決策を提案する能力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>1) スポーツ医学の基礎的な知識を身につける（知識・想起）。2) 一次救急処置、心肺蘇生の手順、AED の使用手順などスポーツ救急医学を列挙する（知識・問題解決）。3) スポーツ外傷・障害について理解し、その対応および予防法を見出す方法論を列挙する（知識・解釈）。4) ロコモティブシンドロームについて理解し、その対処法を説明する（知識・問題解決）。5) われわれの生活とスポーツについて再考し、スポーツによる豊かな生活と文化の向上に役立てる方法論を説明する（知識・問題解決）</p>						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>参考文献などの調査やフィールドワークによりリポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】リポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に自分自身でスポーツ医学の分野において興味のあることを題材に取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をリポートとしてまとめる（自習）。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】1つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>						
スケジュール	<p>前期：教材1または2のリポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目指しに提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月19日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2または1のリポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目指しに提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も提出締切日（1月14日）までに最終稿を提出する。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
成績評価	リポート	80%	テキストの理解度、着眼点、取り上げた課題の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性、およびリポートの構成や記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。				
	観察記録	20%	リポート作成に関する Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとり状況や態度などを評価する。				
履修者への要望	<p>スポーツ医学は、整形外科や内科といった医学的知識はもちろん、運動生理学、機能解剖学、健康管理学など幅広い分野が関与しています。これらを踏まえてスポーツ外傷・障害について、その疫学、診断、治療、リハビリ、および予防やトレーニング方法など、特に興味のある分野について課題を見つけ、それを解明することによって、スポーツ医学の基礎を学ぶことをテーマ1とします。そしてロコモティブシンドロームを理解し、その対処法を含めて、自身はもちろん周りの方々に关心を持って頂きロコトレを推奨出来るようになることをテーマ2とします。</p> <p>1) リポートを作成する前に、取り上げる題材やリポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、リポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： (1)小出清一, 福林徹, 河野一郎編 教材名： 『スポーツ指導者のためのスポーツ医学』(南江堂, 2009年) ISBN: 978-4-524-24034-0 3,200円+税
	スポーツに伴う外科系、内科系の外傷・障害について、発生メカニズムから症状、現場での処置、医学的治療までをわかりやすくまとめ、またスポーツ活動に関わる者として心得ておくべき関連知識や救急処置などについて解説。
参考図書	林光俊編集主幹『ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療』(南江堂, 2014年) ISBN: 978-4-524-26916-7 6,800円+税
履修上のポイント	スポーツ外傷、スポーツ障害について、その発生メカニズムから症状、現場での処置などの基礎的な知識・手技について学ぶ。取り上げた教材・参考図書は、あくまで一つの参考資料に過ぎず、必要な文献は自分で調べる。
リポート課題 1	スポーツにおけるケガや故障、すなわち「スポーツ外傷・障害とはなにか」を理解する。その上でスポーツ医学が関連する疾患について、外科系・内科系のスポーツ外傷・スポーツ障害、成長期・中高年特有のスポーツ障害、あるいは罹患部位(肩、膝、腰)別のスポーツ傷害など、何でも良いので一つ取り上げ、その疫学、原因、対処法、予防法、リハビリテーション・リコンディショニングのポイントなどに関して、最新の知見も踏まえて述べる。
リポート課題 2	リポート 1で選択した課題以外で、出来ればスポーツ種目別で、特に関心のあるスポーツ外傷・障害について、課題 1と同様にその疫学、原因、対処法、予防法、リハビリテーション・リコンディショニングのポイントなどに関して、最新の知見も踏まえて述べる。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にする(家族や周囲の方の事例でも可)。

基本教材 2	
教材の概要	(1)奥水健治著 『基礎から学ぶ、スポーツ救急医学』(ベースボールマガジン社, 2009年) 著者名： ISBN:978-4-583-10213-9 1,600円+税 教材名： (2)中村耕三著 『実践！ロコモティブシンドローム第2版』(三輪書店, 2014年) ISBN:978-4-89590-467-4, 2,000円+税
	(1)スポーツ選手、指導者、トレーナー、保護者向けに、AED(自動体外式除細動器)の使い方、CPR(人工呼吸+胸骨圧迫)のやり方など、安全なスポーツ環境づくりと応急処置について解説。 (2)運動器のメカニズムやロコモティブシンドローム=運動機器症候群の解説や、自分の運動器の状態を自己点検できる「ロコチェック」、予防・改善のための実践「ロコトレ」を解説した改訂版。
参考図書	『ロコモティブシンドローム診療ガイド2010』(日本整形外科学会, 2010), ISBN:978-4830627637, 2,800円+税
履修上のポイント	日本は世界に類をみない長寿国家であるが平均寿命の延長に健康寿命が追いついておらず、要介護者の急激な増加が社会的問題となっている。それに対して運動器の障害をいかに予防し健康で長生きするか、ロコモティブシンドロームについて理解する。そしてスポーツがわれわれの人生においていかに役立っているかを考える。
リポート課題 1	一次救急処置、心肺蘇生の手順、AED 使用手順など、スポーツ活動中に倒れている人を発見した場合の具体的な対応手順について述べる。
リポート課題 2	平均寿命と健康寿命、ロコモティブシンドロームの概念、運動器の障害の代表的な疾患について述べる。ロコモティブシンドロームの対処法と、健康的に長生きすることに関するスポーツの意義・役割について述べる。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にする(家族や周囲の方の事例でも可)。

科目名	スポーツ心理学特講	担当者	タネガシマ 種ヶ嶋 尚志	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、スポーツ心理学的諸課題について具体的な解決方法を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。【A-1:4】</p> <p>II. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ、論理的整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>III. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。【A-7:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>															
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>問題発見・解決力：スポーツにおける諸問題の課題解決の為に、スポーツ心理学領域を理解し、具体的な解決方法の心理学的案出と課題解決の為の心理学的思考を修得することを目標とする。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <p>①科目内で扱った事象をスポーツ心理学的視点から説明することができる。（知識・想起・態度）</p> <p>②科目内で扱った内容をベースに自分自身を表現することができる。（知識・解釈）</p> <p>③運動・スポーツの課題を心理学的視点から捉え、課題解決の方法を論理的に記述することができる。（知識・技能）</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio のコレクションを利用して、インラクティブな個別指導を受ける。（SB0s①） manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、リポートの推敲のためのピア・レスポンス等）（SB0s②③） 図書館、インターネットを利用した参考文献を調査や、フィールドワークからリポートを作成する。（SB0s①②③） <p>【学修方略（LS）】</p> <p>与えられた課題に沿って教材を丹念に読み、参考文献も参照しながら、リポート作成を行う。（自習した内容を自主研究に繋げリポート作成し成果物としてまとめる）</p> <p>【学修時間】</p> <p>リポート課題1につき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>学修項目 課題図書内に示されているキーワードを文献等を用いて調べる</p> <p>学修時間 1つのリポート作成にあたり、30時間以上（教材学修20時間/リポート1本、リポート執筆10時間/リポート1本）、manaba folioへの提出・再提出のやりとりに15時間以上（ディスカッション15時間/リポート1本）を目安とする。</p>															
スケジュール	<p>前期：教材1のリポート課題1草稿は7月30日に提出し、リポート課題2草稿は8月30日に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前にメール等で相談すること。 両リポート課題の最終稿は9月9日に提出する。</p> <p>後期：教材2のリポート課題1草稿は11月30日に提出し、リポート課題2草稿は12月25日に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談すること。 両リポート課題の最終稿は年明け1月5日に提出する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>60%</td> <td>課題に関係する重要な論点をおさえているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。</td> </tr> <tr> <td>観察記録</td> <td>40%</td> <td>活発に質問を行なうなど積極的に取り組んだか。 リポートの提出期限を厳守したか。 明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	60%	課題に関係する重要な論点をおさえているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。	観察記録	40%	活発に質問を行なうなど積極的に取り組んだか。 リポートの提出期限を厳守したか。 明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。
種別	割合	評価基準														
リポート	60%	課題に関係する重要な論点をおさえているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。 引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。														
観察記録	40%	活発に質問を行なうなど積極的に取り組んだか。 リポートの提出期限を厳守したか。 明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。														
履修者への要望	<p>教材の内容だけを取り入れるのではなく、受講者自身の考え方を取り入れ、論理的でオリジナルなリポートになるよう心がけて下さい。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著 教材名： 『よくわかるスポーツ心理学』(ミネルヴァ書房, 2012年) ISBN-978-4-623-06179-2 2400円+税 スポーツ心理学に関して、基礎から実践まで網羅されたテキスト。
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』(大修館書店, 2008年) ISBN-978-4-469-06217-5 5700円+税
履修上のポイント	スポーツの発育発達的課題や運動学習的課題、動機づけ的課題、社会心理学的課題（集団・リーダーシップ、ソーシャルスキルなど）について、教材の内容を整理し以下のリポート課題を考える。
リポート課題 1	教材のⅠ章～Ⅲ章までを読み、重要である点や興味を有した点をテキスト中から3つ取り上げ、その頁の要約を行い、それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点： 要約は1つにつき平均800字を目安として、そのコメントを400字程度で行うこと
リポート課題 2	教材のⅣ章～Ⅴ章までを読み、重要である点や興味を有した点をテキスト中から3つ取り上げ、その頁の要約を行い、それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点： 要約は1つにつき平均800字を目安として、そのコメントを400字程度で行うこと、また動機づけや社会心理的内容は自身の経験に照らして考察すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著 教材名： 『よくわかるスポーツ心理学』(ミネルヴァ書房, 2012年) ISBN-978-4-623-06179-2 2400円+税 スポーツ心理学に関して、基礎から実践まで網羅されたテキスト。
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』(大修館書店, 2008年) ISBN-978-4-469-06217-5 5700円+税
履修上のポイント	スポーツの健康心理的課題や競技心理的課題、メンタルトレーニング的課題、臨床心理学的課題について、教材の内容を整理し以下のリポート課題を考える。
リポート課題 1	教材のVI章～IX章までを読み、重要である点や興味を有した点をテキスト中から3つ取り上げ、その頁の要約を行い、それに対する自分の意見・コメントを述べよ。 留意点： 要約は1つにつき平均800字を目安として、そのコメントを400字程度で行うこと、また教材のVI章～IX章までの重要な点や興味を有する面に加え、スポーツの功罪を心理学的見地から言及したリポートにすること。
リポート課題 2	スポーツ心理学諸課題についてテーマを1つ設定し、その課題点の解決策について論述しなさい。 留意点： テーマを設定した理由を含め、課題解決の方法深く掘り下げ、実践的なりポートにすること。

科目名	コーチング学特講	担当者	スズキ 鈴木 典	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座はスポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を修得することで、以下の能力を身につけることを目的とする。 I. スポーツ科学の個別科学領域（運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等）の知見に立脚した「トレーニング理論」を説明することができる。【A3-4】 II. 「トレーニング理論」に基づいた「実践的トレーニング方法」について、トレーニング計画立案やトレーニング効果（競技力）の評価方法を企画・立案することができる。【A4-4】 III. 「実践的トレーニング方法」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を、コーチング学の理論（コーチングとコーチング学の定義、コーチの役割と使命、競技力を養成するための問題解決型思考やPDCAサイクル、コーチングにおけるマネジメント、医・科学情報によるコーチング支援等）に基づいて呈示することができる。【A4-4】【A8-4】															
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>スポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」、及びスポーツ実践場面の問題や解決方法と自身のスポーツキャリアを照合し、「実践的コーチング」の手段と方法を修得する。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <p>①スポーツ科学の個別学問領域で得られた知見を説明することができる。【知識・想起】 ②「トレーニング理論」に基づく「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」を形成できる。【技能】 ③自分が形成した「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」をコーチングの実践場面に適用できる。【技能】、【知識・問題解決】</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>スポーツ実践場面における指導やトレーニング方法の調査・観察（フィールドワーク）、及び図書館を利用した先行研究に関わる文献検索を含めてリポートを作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>「①基本教材及び参考図書等の熟読（自習）(SB0s①)【10時間/リポート1本】」、「②リポート課題に沿った事例あるいはデータの収集と分析（自主研究）(SB0s②&③)【10時間/リポート1本】」、「③リポートの作成 (SB0s②&③)【10時間/リポート1本】」、「④manaba folio での掲示板機能を利用して複数回に渡るリポート添削での教員と受講生とのディスカッション（ディベート）(SB0s②&③)【15時間/リポート1本】」の学修方略により、「トレーニング理論」→「実践的トレーニング方法」→「体育・スポーツの指導実践へのコーチングの適用」について、自分が選択したスポーツ種目をモデルに段階的なリポートを作成する。</p> <p>【学修時間】</p> <p>リポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要する。</p> <p>教材の学修：20時間</p> <p>リポート執筆：10時間</p> <p>リポート推敲と最終稿の完成 (manaba folioへの提出、教員の添削指導等)：15時間</p>															
スケジュール	<p><前期> • リポート課題1 締切：7月末（草稿） ★最終稿提出期限=前期締切日 • リポート課題2 締切：8月末（草稿） ★最終稿提出期限=前期締切日</p> <p><後期> • リポート課題1 締切：11月中旬（草稿） ★最終稿提出期限=後期締切日 • リポート課題2 締切：12月下旬（草稿） ★最終稿提出期限=後期締切日</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>80%</td> <td>課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。</td> </tr> <tr> <td>観察記録（試験）</td> <td>20%</td> <td>草稿段階から最終稿に至るプロセス (manaba folio 等によるリポート作成に対する積極的态度等) を評価する。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	80%	課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。	観察記録（試験）	20%	草稿段階から最終稿に至るプロセス (manaba folio 等によるリポート作成に対する積極的态度等) を評価する。
種別	割合	評価基準														
リポート	80%	課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。														
観察記録（試験）	20%	草稿段階から最終稿に至るプロセス (manaba folio 等によるリポート作成に対する積極的态度等) を評価する。														
履修者への要望	<p>①草稿段階からリポートのテーマや構成について、メール等を中心に連絡相談して下さい。</p> <p>②リポートのテーマとして選択するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが、出来れば、自分が経験したスポーツ種目の方がまとめ易いと考えられます。</p> <p>③リポート作成に際し、基本教材や参考図書はもちろんですが、文献もオンラインによる検索方法の修得も含め、積極的に検索・確認して下さい。なお、引用文献の記載方法等については草稿段階で指示します。</p> <p>④その他、質問等はメール等で連絡して下さい。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 村木征人著 教材名： 「スポーツ・トレーニング理論」 (ブックハウス・エイチディ, 1994年) 4,500円+税</p> <p>「トレーニング理論」について、諸外国（米国、ソ連、東欧社会等）と日本の違い、競技者のライフサイクル（発育発達や性差等）との関係、トレーニングの構造や課題（技術的・戦術的側面、筋力、持久力、トレーニング負荷等）、トレーニングの期分け等、全般を網羅した教科書的なテキストである。</p>
参考図書	<p>Neville Cross・John Lyle 編著、川井昂・澤村博・小山裕三翻訳監修 「コーチと選手のためのコーチング戦略」 ISBN : 978-4-8429-1455-8 (八千代出版, 2008年) 3,200円+税</p>
履修上のポイント	本課題においてはスポーツ科学の個別科学領域の知見に立脚した「トレーニング理論」について理解を深める。自身が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づく「実践的トレーニング方法」を検討するが、指定した基本教材や参考図書に加え、必要な文献を自身で収集する。文献収集は特に、スポーツ科学の個別科学領域から得られた知見と「トレーニング理論」の対応を確認する上で重要となる。
リポート課題 1	<p>自分が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づくトレーニングの課題と方法を記述しなさい。 留意点：特に 4、7、8、9、10、11 章のトレーニングの構造、トレーニング課題、トレーニング手段の分類、トレーニング負荷、トレーニング構成の一般原理を熟読し、自身の経験も含めた考察を展開する。</p>
リポート課題 2	<p>リポート課題 1 と同じスポーツ種目を対象として、「トレーニング理論」に基づくトレーニングの期分け、計画、管理について記述しなさい。 留意点：特に 3、5、6、11、12 章の競技者のライフサイクル、試合日程とトレーニング期分けの諸問題、周期性（期分け）の原理、トレーニング構成の計画・管理を熟読し、対象としたスポーツ種目のトレーニングプラン構築について検討を進める。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 日本コーチング学会編 教材名： 「コーチング学への招待」 ISBN : 978-4-469-26819-5 (大修館書店, 2017年) 2,700円+税</p> <p>コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関する知見を網羅した最新のテキストである。</p>
参考図書	基本教材 1 と同じ
履修上のポイント	本課題においては自分が選択したスポーツ種目について、基本教材 1 で学修した「トレーニング理論」、及び「トレーニング方法とトレーニングプラン」を体育・スポーツの指導実践に適用する「コーチング」を検討する。基本教材 1 と同様に指定した基本教材や参考図書に加え、文献収集が必要となり、特に測定結果のフィードバック等、指導実践場面における資料の表示方法や表示された資料と学習者の「感性」の関係等については最新の知見を確認することが重要となる。
リポート課題 1	<p>コーチング学の定義、競技力の概念、競技力を養成するためのトレーニングの考え方等を踏まえ、自分が選択したスポーツ種目における「トレーニング方法とトレーニングプラン」を指導実践に適用する「コーチング」について記述しなさい。 留意点：先ず 1~4 章の「コーチングとは何か」、「コーチング学とは何か」、「競技力とトレーニング」、「競技力の養成」を踏まえて、5~6 章の「競技トレーニングの計画」、「試合への準備」について、基本教材 1 の学修（特にリポート課題 2）との対応を図る。</p>
リポート課題 2	<p>自分が選択したスポーツ種目を対象として、コーチングにおけるマネジメント、及び医・科学情報によるコーチング支援について記述しなさい。 留意点：特に 7~8 章の「コーチングにおけるマネジメント」、「スポーツ医科学、情報によるコーチング支援」を参照し、コーチングにおける組織的なマネジメントと医科学、情報によるコーチング支援について考察を進める。</p>

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析で必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的な論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。【A-4:3】</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。【A-1:1】</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。 ・データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。 ・データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。 ・収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。 						
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、リポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>【学修時間】</p> <p>1つのリポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 ・リポート課題の執筆：10 時間 ・Manaba-Folio へのリポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間 						
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のリポート課題 1：6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 1 のリポート課題 2：8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のリポート課題 1：11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 2 のリポート課題 2：12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月中旬までに最終稿を提出する。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	リポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> ・最終提出期限内に提出されなかったリポート課題は、（原則的に）0 点となります。 ・リポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたリポートは評価の対象としません）。教材の引き写しへ評価の対象外とします。 				
	平常評価	21%	<ul style="list-style-type: none"> ・最終提出までに Manaba-Folio 上でリポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 ・草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのリポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。 				
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・リポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをリポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがリポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 ・要覧にもあるように、後期課題のリポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少數の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をリポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。 						

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） (1) ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） (2) ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p> <p>(1)は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税 鎌原雅彦他（編著）『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房，1998年） ISBN:978-4-76-282109-7 1,500円+税 保坂亨他（編著）『心理学マニュアル 面接法』（北大路書房，2000年） ISBN:978-4-76-282170-7 1,500円+税</p>
履修上のポイント	リポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所」は、教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし、「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所」は、教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にする。
リポート課題 1	<p>以下に示す項目について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。</p> <p>①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所</p> <p>留意点：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
リポート課題 2	<p>以下の2項目のうち、一つを選ぶこと：</p> <p>①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。</p> <p>留意点：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては、調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 南風原朝和（著） 教材名： 『心理統計学の基礎』（有斐閣アルマ，2002年）ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は、統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税 松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかつた因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税 繁栄算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & Aで知る統計データ解析 Dos and DON' Ts』（サイエンス社，2008年）ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	教材を読んでも統計学の基本がわからない場合は、参考図書の『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会）を参照すること。
リポート課題 1	<p>以下に示す用語について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。</p> <p>①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性</p> <p>留意点：各用語あたり800字以内を目安に、3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし、その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
リポート課題 2	<p>与えられたデータをもとに、統計解析ソフト（Excel統計2012, 株式会社情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い、その結果を要約すること。</p> <p>①すべての変数について度数分布、代表値、散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する。</p> <p>留意点：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（manaba folio）に添付する。統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし、掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

科目名	統計基礎 I	担当者	アラセキ 荒関 仁志	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは、大変に使い勝手が良く、ややもすると統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくとも、統計計算を形の上では、結果を得ることができますが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見されます。</p> <p>本講座では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、数式を解さず、統計の基本概念を理解します。【A-1:4】 & 【A-2:4】</p> <p>また、直接表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の「基本的な考え方を理解する」ことを修得の目的とします。【A-3:4】</p>										
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれる、比較的身近な数学であることを理解してください。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的考え方を立脚した数値処理であることを理解してください。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本講座では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを自習にて行なうことを目指します。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解します。この①と②によって統計の知識を様々なデータに応用可能となります。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得を、レポート作成を利用して習得します。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p>										
学修方法（方法） 【LS】と学修時間	<p>【学修方略 (LS)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 指定教科書および参考文献を自習にて熟読してください。【SBO①】【25 時間／1 冊】 ② 与えられた課題についてリポートを作詞して提出します。【SBO②&③】。 ③ リポート課題 1 の作成には約 25 時間、リポート課題 2 には約 20 時間を必要とします。 ※) なお、参考文献等を読む場合やリポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われる事でも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。リポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。 										
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① リポートの受付は何時でも行っていますので、リポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【5月～】 ② リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、リポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めないので注意してください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿レポートをながらず 1 本は提出をしてあること】 ③ 課題提出期限は 9 月 19 日ですので、ご注意ください。 ※) リポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。 										
成績評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">種 別</th> <th style="text-align: center;">評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">リポート</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 ・ 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 ・ 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。 ・ 統計に関する疑問や不明な点をメール等で質問し解決できたか。 </td> </tr> </tbody> </table>							種 別	評価基準	リポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 ・ 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 ・ 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。 ・ 統計に関する疑問や不明な点をメール等で質問し解決できたか。
種 別	評価基準										
リポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 ・ 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 ・ 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。 ・ 統計に関する疑問や不明な点をメール等で質問し解決できたか。 										
履修者への要望	<p>特にありませんが、数学が苦手で、特に統計処理が嫌いな人が受講することをお勧めします。教科書や学習する項目は、基本的なことが主ですので、数学や統計処理が得意な人はご遠慮ください。</p>										

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 向後千春，富永敦子，『First Book 統計学がわかる』（技術評論社，2007年），ISBN:978-4-77-413190-0, 1,680円+税 教材名： または、 涌井 貞美，『意味がわかる統計解析』（ベレ出版，2013年），ISBN: 978-4-86064-345-4, 2,000円+税</p> <p>本書は、数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明する初心者でも気軽に読めて楽しく統計を学習できる教科書です。 本書では、ある「ハンバーガー屋さん」で起こる様々な疑問や問題を、統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく教科書です。とても面白く、統計データ分析の基本を理解できます。統計が苦手と思っている人には最適な教科書です。</p>
参考図書	<p>涌井良幸，涌井貞美『Excelで学ぶ統計解析』（ナツメ社，2003年） ISBN:978-4-81-633418-4 2,500円+税 菅 民郎『Excelで学ぶ統計解析入門 第2版』（オーム社，2003年） ISBN:978-4-81-633418-4 2,800円+税 小島 寛之，『完全独習 統計学入門』（ダイヤモンド社，2006年），ISBN : 978-4-478-82009-4, 1,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>本講義は、とにかく数学が苦手で、統計学が苦手な人のための講義です。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け、実際のデータを、表計算ソフトを使うことで数式での説明を介さずに、統計データ処理を解説しています。ですから、理屈で統計処理を理解するのではなく、体で統計データ処理を理解することを目的としています。 先ずは、手を動かして統計データ処理を行ってください。</p>
リポート課題 1	<p>t検定と分散分析とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明してください 特に、標本の正規性や等分散性を意識してリポートを作成してください。</p>
リポート課題 2	<p>身の回りのデータを1組用意し、t検定を行い、統計処理の結果を考察してください。また、別な身の回りのデータを1組用意し、分散分析を行い、その統計処理の結果を考察してください。</p>

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	アラセキ 荒関 仁志	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトを自由に利用できるようになってきました。その結果、今まででは利用するのが難しかった、多変量解析などが簡単に誰でもが利用できるようになりました。しかし、統計処理が簡単に利用できる反面、その基本にある「数理学的背景」をまったく理解しないまま、データ処理を行っているが学生が多く見られるようになってきました。</p> <p>本講座では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解します。【A-1:4】 & 【A-2:4】</p> <p>また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを目指します。【A-3:4】</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (G10)】</p> <p>本講座では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学習します。特に、「相関」、「重回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の取得することを目指します。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」ですが、その理論的背景を習得することを目指します。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定（線形関係）の上に成り立っていることを習得する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小2乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを習得することで、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が習得できることを目指します。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p>						
学修方法（方法） 【LS】と学修時間	<p>【学修方略 (LS)】</p> <p>① 指定教科書および参考文献を自習にて熟読します。【SB0①】【25時間／1冊】</p> <p>② 与えられた課題についてリポート作成し提出します。【SB0②&③】。</p> <p>③ レポート課題1の作成には、約25時間、レポート課題2の作成には20時間を必要とします。 ※) なお、参考文献等を読む場合やリポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われるごとにしても、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。リポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p>						
スケジュール	<p>① リポートの受付は何時でも行っていますので、リポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【9月～】</p> <p>② リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。なお、教員とのやり取り無しに、リポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り1ヶ月前には草稿レポートをながらず1本は提出をしてあること】</p> <p>③ リポート締め切りは、1月14日ですのでご注意ください。 ※) リポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。</p>						
成績評価	種別	評価基準					
	リポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。 ・ 「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。 ・ エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。 ・ 「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 ・ 「多返照解析」に関する統計処理技術を議論できたか。 ・ 疑問や不明な点などの解決に、メール等を利用して、解決できたか。 					
履修者への要望	数学が苦手で、統計処理が嫌いな人が受講してください。ただし、そのような数学を嫌いしている人は、必ず「統計基礎Ⅰ」も併せて受講してください。						

【リポート課題】

基本教材 1	
	向後千春, 富永敦子, 『First Book 「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年), 著者名 : ISBN:978-4-77-413707-0, 1,680 円+税 教材名 : または、 石井 俊全, 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014) , ISBN: 978-4-86064-398-0, 1,900 円+税
教材の概要	理数系以外の学生で、統計を知っている人でも「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くありません。本書では、極力数式を使わず、このデータの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組み解説します。 アイスクリームショップを舞台にアルバイトのアイちゃんと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用の利用可能な話題を取り上げます。親しみやすい話題と物語の展開で、比較的理 解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解することができます。
参考図書	上田太一郎, 小林真紀, 渕上美喜『Excel で学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年) ISBN:978-4-27-406556-9 2,800 円+税 菅 民郎『Excel で学ぶ多変量解析入門 第2版』(オーム社, 2007年) ISBN:978-4-27-406708-2 2,800 円+税 加藤剛『知識ゼロでもわかる統計学シリーズ 本当に使えるようになる多変量解析超入門』(技術評論社, 2013年) ISBN 978-4-7741-5630-9 1,980 円+税
履修上の ポイント	本講義では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とします。ここでは数式による説明ではなく、表計算ソフトを使って、直接データを統計処理します。ですから、数学が苦手な人でも「相関」や「回帰分析」、「因子分析」の基本的な仕組みを理解することができるので安心して受講してください。
リポート課題 1	「相関」と「回帰分析」, 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明してください。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらリポートを作成してください。
リポート課題 2	身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」, 「因子分析」を計算し、それぞれの結果を考察してください。

科目名	ゲーム理論	担当者	アラセキ 荒関 仁志	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ゲーム理論は、経済学から発展してきたが、現在では経営学、政治学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ化学など様々な分野に応用されている。</p> <p>社会における個人の行動を決定する場合、他人との相互作用を考慮した意思決定をすることが重要になってくるが、この相互作用を考慮した意思決定を数学的なモデルとして研究されているのがゲーム理論である。</p> <p>本講座では、このゲーム理論における基礎的な考え方を習得することを目的とする。【A-1:4】 & 【A-2:4】</p> <p>具体的には、ゲーム理論の基礎である「囚人のジレンマ問題」を理解し、それを元により現実的な意思決定である「交渉ゲーム問題」を理解することを最終目標とする。【A-3:4】</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>「囚人のジレンマ問題」を理解し、ゲーム理論に特有な「利得」や「ナッシュ均衡」の考え方を数学的に理解する。さらに、より一般的な意思決定と考えられている「交渉ゲーム」を学習し、そこで使われている「混合戦略」や「期待利得」の計算方法を理解することを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 身の回りの様々な意思決定過程をゲーム理論的志向で考察し、意思決定の知識を利用し問題解決や技術を理解することを修得する。</p> <p>② それによって合理的な意思決定とは何かを習得する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p>						
学修方法（方法） 【LS】と学修時間	<p>【学修方略 (LS)】</p> <p>① 教科書の「非協力ゲーム（または囚人のジレンマ問題）」を自習にて熟読し修得する。【SBO①】 【約 25 時間】</p> <p>② 次に「交渉ゲーム」を自習にて修得すること【SBO①】【25 時間程度】。</p> <p>③ その上で、リポート作成では設問に回答してください。その際、教科書の数学的な取扱いで分からぬ部分などがあれば、担当者に質問し、個人指導を受けることを基本とします。【SBO②】【リポート課題 1 は約 20 時間、リポート課題 2 は約 25 時間】</p> <p>④ なお、交渉ゲームを理解するためにには、繰り返しゲームなどの理解が必要になりますので、「囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」以外の章の知識が多少必要となりますので、他の章もご一読されることをお勧めします。【SBO②】【約 15 時間】</p>						
スケジュール	<p>① リポートの受付は何時でも行っていますので、リポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成リポートを提出することを推奨します。【5月～】 ※) リポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解してください。</p> <p>② 教員とのやり取り無しに、リポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めないので注意をしてください。【締め切り 1 ヶ月前には草稿リポートをなからず 1 本は提出をしてあること】 なお、リポートの締め切りは 9 月 19 日となりますので、ご注意ください。 ※) リポートの提出に関しては、各自のスケジュールに合わせて行うことを前提としますが、予め遅れることが分かっている場合には、その旨を必ず知らせてください。</p>						
成績評価	種別	評価基準					
	リポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム理論の基礎を理解できているか。 ・ 身近な問題に対してゲーム理論を応用できるか。 ・ ゲーム理論の数学的仕組みを理解できているか。 ・ 不明な項目に対して、メール等で適切に質問し理解できたか。 					
履修者への要望	<p>特にありませんが、様々な「関係」について興味をもっている学生の受講を歓迎します。</p> <p>ゲーム理論の理解には数学が必要となります、本講座では簡単な四則演算程度で十分です。また、数学に興味があるが、難しそうと思っている学生も大歓迎いたします。数学的取り扱いは、別途担当者作成のレジメで解説します。</p>						

【リポート課題】

基 本 教 材	
教材の概要	武藤/滋夫, 『ゲーム理論入門』(日経文庫—経済学入門シリーズ) (日本経済新聞社, 2001年), 著者名 : ISBN-10: 4532108292, 860 円+税 または 教材名 : 岡田 章, 加茂 知幸, 三上 和彦, 宮川 敏治, 『ゲーム理論ワークブック』(有斐閣, 2015), ISBN 978-4-641-16463-5, 1,900 円+税
	本テキストは、ゲーム理論の数学的説明が平易に正確に記述されており、国内のゲーム理論の書籍の中では、最も優れた書籍である。内容は「囚人のジレンマ」に始まり、「繰り返し囚人のジレンマ問題」や「交渉ゲーム」など多義にわたっている。
参考図書	Avinash K. Dixit (著), Barry J. Nalebuff (著)『The Art of Strategy: A Game Theorist's Guide to Success in Business and Life』(W W Norton & Co Inc, 2010年) ISBN 978-0-393-33717-4, 1,770 円+税 (Aamazon.co.jp にて 2016 年 11 月現在) 川越 敏司 (著), 『行動ゲーム理論入門』(エヌティティ出版, 2010年), ISBN : 978-4-7571-2258-1, 2,700 円+税 岡田 章 (著), 『ゲーム理論 新版』(有斐閣; 新, 2011年), ISBN 978-4-641-16382-9, 3,800 円+税
履修上の ポイント	数学的取り扱いで疑問が生じた場合には、悩まず担当教員に質問をしてください。初めは、数学的取り扱いに慣れていない院生には難しそうに思える数学的表現も、その基本は非常に単純な構造であることが分かりますので、ご安心して受講してください。
リポート課題 1	囚人のジレンマ問題を身近な事例によって説明し、その時の「ナッシュ均衡」について、各自の説明してください。
リポート課題 2	身の回りの「ジレンマ問題」を取り上げ、「囚人のジレンマ問題」と「交渉ゲーム問題」で解析し、それぞれの特徴を説明してください。